2026 年度
シラバス（授業計画）

多摩リハビリテーション学院専門学校

言語聴覚学科

授業科目

言語聴覚学科（Speech-Language-Hearing therapy）

ディプロマ・ポリシー（卒業までに身につけるべき能力）
①言語聴覚士としての職業倫理をもち、対象者やその家族と真摯に向き合うことのできる人材を育成する。
②言語聴覚士として必要な知識・技能を習得しようとする探究心や、自ら問題を解決しようとする積極性を育てる。
③科学的根拠にもとづいたリハビリテーションを提供できる人材を育成する。
④リハビリテーション専門職の役割を理解し、目標に向かってチームで協力し合える人材を育成する。

		講義	実習
2学年	到達目標	①対象者やその家族と真摯に向き合うことができる。 ②自己の問題点に対し、改善に向けて努力することができる。 ③対象者に関する情報を取捨選択し、生活上の問題点とその原因について仮説を立てることができる。 ④リハビリテーション専門職種の役割を理解し、情報を共有することで対象者の問題を幅広く捉えることができる。	
		【専門基礎分野】 心理測定法 社会保障制度・関係法規 専門基礎分野特論 Ⅰ基礎医学／Ⅱ臨床医学／Ⅲ音声言語聴覚医学／Ⅳ心理学 Ⅴ言語学／Ⅵ音声学／Ⅶ音響学／Ⅷ社会福祉・教育 【専門分野】 失語・高次脳機能障害学 Ⅳ訓練／Ⅴケーススタディー 言語発達障害学 Ⅷケーススタディー 発声発語・嚥下障害学 Ⅳ成人系発話障害／Ⅵ摂食嚥下障害／Ⅶ音声障害／Ⅷ流暢性障害 Ⅸケーススタディー 聴覚障害学 Ⅳ小児聴覚障害／Ⅴ補聴器・人工内耳／Ⅵ視覚聴覚二重障害 専門分野特論 Ⅰ言語聴覚障害学総論／Ⅱ失語症学／Ⅲ高次脳機能障害学 Ⅳ言語発達障害学／Ⅴ発声発語障害学／Ⅵ摂食嚥下障害学 Ⅶ聴覚障害学	【総合臨床実習／12週間】 実際に対象者についての情報収集および評価をし、対象者に即した基本的な言語聴覚療法を学ぶ。
1学年	到達目標	①対象者と良好な関係を築くために必要なコミュニケーション態度・技術を身につける。 ②自己の問題点を客観的に認識できる。 ③言語聴覚士が対象とする基本的な疾患・障害について理解する。	
		【専門基礎分野】 基礎医学／臨床医療学Ⅰ～Ⅲ／精神神経学／聴覚医学／音声言語医学 認知・学習心理学／生涯発達心理学／臨床心理学／心理学演習Ⅰ～Ⅲ 言語学／音声学／音響学／聴覚心理学／言語発達学／言語認知学 コミュニケーション学／リハビリテーション概論 【専門分野】 言語聴覚障害学総論／言語聴覚障害臨床論 言語聴覚障害学演習Ⅰ～Ⅱ／失語症学Ⅰ～Ⅱ 高次脳機能障害学Ⅰ～Ⅱ／言語発達障害学Ⅰ～Ⅲ 発声発語障害学Ⅰ～Ⅲ／摂食嚥下障害学Ⅰ～Ⅱ 聴覚障害学Ⅰ～Ⅲ／聴覚障害学演習Ⅰ／地域言語聴覚療法学	【見学実習／5日間】 言語聴覚臨床に接し、臨床の実際を学ぶ。 【評価実習／15日間】 臨床の基本的態度と言語聴覚障害がある人の評価・診断技能を学ぶ。

言語聴覚学科　2025年度入学生　カリキュラム

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	学則に定める合計単位数	学則に定める単位数	学則に定める時間数	授業形式	学則に定める授業科目	1学年	講師名	2学年	講師名
専門基礎分野	基礎医学	3	8	1	15	講義	医学総論	15	林宏拓・学科教員		
				2	30	講義	生理学	30	米倉千晶		
				2	30	講義	病理学	30	山本寛		
				2	30	講義	解剖学	30	米倉千晶		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅰ【基礎医学】			15	学科教員
	臨床医学	6	11	1	15	講義	耳鼻咽喉科学	15	物部寛子・吉原晋太郎		
				2	30	講義	内科学	30	佐藤和夫		
				2	30	講義	小児科学	30	鈴木文晴		
				1	15	講義	形成外科学	15	時岡一幸		
				2	30	講義	臨床神経学	30	佐藤和夫		
				1	15	講義	精神医学	15	田口弘之・中村晃一		
				1	15	講義	リハビリテーション医学	15	佐藤和夫・学科教員		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅱ【臨床医学】			15	学科教員
	臨床歯科医学	1	1	1	15	講義	臨床歯科医学・口腔外科学	15	赤坂徹		
	音声・言語・聴覚医学	3	7	2	30	講義	呼吸発声発語系	30	西片裕		
				2	30	講義	聴覚系	30	芦野聖子・馬場俊太郎・吉原晋		
				2	30	講義	神経系	30	天野カオリ		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅲ【音声言語聴覚医学】			15	学科教員
	心理学	7	12	2	30	講義	認知・学習心理学	30	藤枝幹大		
				2	30	講義	生涯発達心理学	30	藤枝幹大		
				3	45	講義	臨床心理学	45	藤枝幹大		
				2	30	講義	心理測定法			30	福島和郎
				2	30	講義	心理統計法	30	福島和郎		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅳ【心理学】			15	学科教員
	言語発達学	1	2	2	30	講義	言語発達学	30	蛋間郁美		
	言語学	2	4	3	45	講義	言語学	45	小松雅彦・西片裕		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅴ【言語学】			15	学科教員
	音声学	2	4	3	45	講義	音声学	45	田中邦佳		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅵ【音声学】			15	学科教員
	音響学	2	4	2	30	講義	音響学	30	田中邦佳		
				1	15	講義	聴覚心理学	15	田嶋圭一		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅶ【音響学】			15	学科教員
	社会福祉・教育	2	4	2	30	講義	社会保障制度・関係法規			30	山下望
				1	30	講義・実技	リハビリテーション概論（介護福祉論含む）	30	介護・OT・PT教員		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅷ【社会福祉・教育】			15	学科教員
	合　計	29	57	57	870			690		180	

専門分野	言語聴覚障害学総論	4	10	2	30	講義	言語聴覚障害学概論	30	木村欣司		
				2	30	講義	言語聴覚障害診断学	30	木村欣司・山﨑暁		
				2	60	講義・実習	コミュニケーション技能演習	60	鈴木真生・学科教員		
				2	60	講義・実習	コミュニケーション障害演習	60	鈴木真生・学科教員		
				1	30	演習	言語聴覚障害学演習	30	鈴木真生・学科教員		
				1	15	講義	専門分野特論Ⅰ【言語聴覚障害学総論】			15	学科教員
	失語・高次脳機能障害学	6	12	1	15	講義	Ⅰ概論	15	山﨑暁		
				2	30	講義	Ⅱ失語・高次脳機能障害	30	西片裕・山﨑暁		
				4	60	講義	Ⅲ評価	60	西片裕・山﨑暁		
				2	30	講義	Ⅳ訓練			30	西片裕・山﨑暁
				1	30	演習	Ⅴケーススタディー			30	西片裕・山﨑暁
				1	15	講義	専門分野特論Ⅱ【失語症学】			15	学科教員
				1	15	講義	専門分野特論Ⅲ【高次脳機能障害学】			15	学科教員
	言語発達障害学	6	8	1	15	講義	Ⅰ概論	15	鈴木圭子		
				1	15	講義	Ⅱ自閉症スペクトラム障害	15	重森知奈		
				1	15	講義	Ⅲ知的発達障害	15	水戸陽子		
				1	15	講義	Ⅳ限局性学習障害	15	中塚誠		
				1	15	講義	Ⅴ脳性麻痺・小児嚥下	15	坂口しおり・谷本式慶		
				1	30	講義・演習	Ⅵ検査・評価	30	馬目雪枝		
				1	30	演習	Ⅶケーススタディー			30	馬目雪枝
				1	15	講義	専門分野特論Ⅳ【言語発達障害学】			15	学科教員
	発声発語・嚥下障害学	9	14	1	15	講義	Ⅰ概論	15	中塚誠・木村欣司・鈴木真生		
				2	30	講義	Ⅱ小児系発話障害	30	鈴木圭子		
				2	30	講義	Ⅲ成人系発話障害	30	鈴木真生		
				1	30	演習	Ⅳ成人系発話障害			30	鈴木真生・山﨑暁
				2	30	講義	Ⅴ摂食嚥下障害	30	木村欣司		
				1	30	演習	Ⅵ摂食嚥下障害			30	加藤太一・木村欣司
				1	15	講義	Ⅶ音声障害			15	西片裕
				1	15	講義	Ⅷ流暢性障害（吃音を含む）			15	南めぐみ
				1	30	演習	Ⅸケーススタディー			30	鈴木真生・吉谷祥宏
				1	15	講義	専門分野特論Ⅴ【発声発語障害学】			15	学科教員
				1	15	講義	専門分野特論Ⅵ【摂食嚥下障害学】			15	学科教員
	聴覚障害学	7	8	1	15	講義	Ⅰ概論	15	岡野由実		
				2	30	講義	Ⅱ成人聴覚障害	30	坂本圭		
				1	15	講義	Ⅲ小児聴覚障害	15	氏田直子		
				1	15	講義	Ⅳ小児聴覚障害			15	岡野由実
				1	15	講義	Ⅴ補聴器・人工内耳			15	関口貴之
				1	15	講義	Ⅵ視覚聴覚二重障害			15	森澤亮介
				1	15	講義	専門分野特論Ⅶ【聴覚障害学】			15	学科教員
	臨床実習	12	15	3	120	実習	実習Ⅰ（評価実習）	120	実習指導者・学科教員		
				12	480	実習	実習Ⅱ（臨床実習）			480	実習指導者・学科教員
	合　計	44	67	67	1545			705		840	

言語聴覚学科　2026年度入学生　カリキュラム

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	学則に定める合計単位数	学則に定める単位数	学則に定める時間数	授業形式	学則に定める授業科目	1学年	講師名	2学年	講師名
専門基礎分野	人体のしくみ・疾病と治療	15	24	3	45	講義	基礎医学	45	米倉千晶		
				3	45	講義	臨床医療学Ⅰ	45	山本寛 他		
				2	30	講義	臨床医療学Ⅱ	30	井宏哲・園師みどり 他		
				3	45	講義	臨床医療学Ⅲ	45	時岡一幸・赤坂徹 他		
				4	60	講義	精神神経医学	60	佐藤和夫・天野カオリ 他		
				3	45	講義	聴覚医学	45	物部寛子・馬場清太郎 他		
				4	60	講義	音声言語医学	60	吉原晋太郎 他		
				2	30	講義	言語聴覚障害学特論Ⅰ			30	
	心の働き	7	13	2	30	講義	認知・学習心理学	30	藤枝幹大		
				2	30	講義	生涯発達心理学	30	藤枝幹大		
				2	30	講義	臨床心理学	30	藤枝幹大		
				2	30	講義	心理測定法			30	
				1	30	演習	心理学演習Ⅰ	30	藤枝幹大 他		
				1	30	演習	心理学演習Ⅱ	30	藤枝幹大 他		
				1	30	演習	心理学演習Ⅲ	30	学科教員		
				2	30	講義	言語聴覚障害学特論Ⅱ			30	
	言語とコミュニケーション	9	13	2	30	講義	言語学	30	小松雅彦		
				2	30	講義	音声学	30	田中邦佳		
				2	30	講義	音響学	30	田中邦佳		
				1	15	講義	聴覚心理学	15	田嶋圭一		
				1	15	講義	言語発達学	15	霍間郁美		
				2	30	講義	言語認知学	30	西片裕		
				1	30	講義・演習	コミュニケーション学	30	鈴木真生		
				2	30	講義	言語聴覚障害学特論Ⅲ			30	
	社会保障・教育とリハビリテーション	1	5	2	30	講義	社会保障制度			30	
				1	30	講義・実技	リハビリテーション概論	30	PT・OT・CW教員 他		
				2	30	講義	言語聴覚障害学特論Ⅳ			30	
	合　計	32	55	55	900			720		180	

専門分野	言語聴覚障害学総論	2	7	2	30	講義	言語聴覚障害学総論	30	木村欣司・古谷祥宏		
				2	30	講義	言語聴覚障害臨床論	30	鈴木真生・古谷祥宏		
				1	30	演習	言語聴覚障害学演習Ⅰ	30	鈴木真生・古谷祥宏		
				1	30	演習	言語聴覚障害学演習Ⅱ	30	学科教員		
				1	15	講義	言語聴覚療法特論Ⅰ			15	
	言語聴覚療法管理学	2	2	2	30	講義	言語聴覚療法管理学			30	
	失語・高次脳機能障害学	6	12	2	30	講義	失語症学Ⅰ	30	西片裕		
				2	30	講義	失語症学Ⅱ	30	西片裕		
				1	30	演習	失語症学Ⅲ			30	
				2	30	講義	高次脳機能障害学Ⅰ	30	山﨑暁		
				2	30	講義	高次脳機能障害学Ⅱ	30	山﨑暁		
				1	30	演習	高次脳機能障害学Ⅲ			30	
				1	30	演習	失語・高次脳機能障害学演習			30	
				1	15	講義	言語聴覚療法特論Ⅱ			15	
	言語発達障害学	6	7	3	45	講義	言語発達障害学Ⅰ	45	重森知奈・水戸玲子 他		
				1	15	講義	言語発達障害学Ⅱ	15	坂口しおり・谷本武慶		
				1	30	演習	言語発達障害学Ⅲ	30	馬目雪枝		
				1	30	演習	言語発達障害学演習			30	
				1	15	講義	言語聴覚療法特論Ⅲ			15	
	発声発語・摂食嚥下障害学	9	15	2	30	講義	発声発語障害学Ⅰ	30	鈴木圭子		
				2	30	講義	発声発語障害学Ⅱ	30	鈴木真生		
				2	30	講義	発声発語障害学Ⅲ	30	鈴木真生		
				1	30	演習	発声発語障害学Ⅳ			30	
				1	15	講義	発声発語障害学Ⅴ			15	
				2	30	講義	摂食嚥下障害学Ⅰ	30	古谷祥宏		
				2	30	講義	摂食嚥下障害学Ⅱ	30	古谷祥宏		
				1	30	演習	摂食嚥下障害学Ⅲ			30	
				1	30	演習	発声発語・摂食嚥下障害学演習			30	
				1	15	講義	言語聴覚療法特論Ⅳ			15	
	聴覚障害学	7	8	1	15	講義	聴覚障害学Ⅰ	15	岡野由実		
				2	30	講義	聴覚障害学Ⅱ	30	坂本圭		
				2	30	講義	聴覚障害学Ⅲ	30	氏田直子・森澤亮介		
				1	30	演習	聴覚障害学演習Ⅰ	30	関口貴之 他		
				1	30	演習	聴覚障害学演習Ⅱ			30	
				1	15	講義	言語聴覚療法特論Ⅴ			15	
	地域言語聴覚療法学	2	2	2	30	講義	地域言語聴覚療法学	30	木村欣司		
	臨床実習	15	17	1	40	実習	見学実習	40	実習指導者・学科教員		
				3	120	実習	評価実習	120	実習指導者・学科教員		
				13	520	実習	総合臨床実習			520	実習指導者・学科教員
	合　計	49	70	70	1655			775		880	

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	基礎医学	米倉千晶	3単位・45時間

授業の概要 （授業の目的）	言語聴覚障害に関わる人体の構造と機能の基礎知識を修得することを目的とする。細胞と組織、各器官系（筋・骨格系、神経系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器）の構造と技能調節を説明できるようにする。	
授業の到達目標 （学生の行動目標）	言語聴覚障害に関わる人体の構造と機能の基礎知識を理解する。 細胞と組織、各器官系（筋・骨格系、神経系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器）の構造と技能調節を説明できる。	
授業計画	解剖学 第1回：解剖学総論 第2回：骨格系 第3回：循環器系 第4回：神経系 第5回：神経系 第6回：神経系 第7回：感覚器 第8回：呼吸器系 第9回：泌尿器系 第10回：筋系	生理学 第1回：神経系 第2回：神経系 第3回：神経系 第4回：神経系 第5回：感覚 第6回：呼吸 第7回：総論 第8回：血液・体温 第9回：呼吸 第10回：循環 第11回：腎臓 第12回：筋 第13回：運動
教科書	北村 諭他監修：『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 解剖学（改定3版）』中外医学社、価格：4,600円＋税　北村 諭他監修：『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 生理学（3版）』　中外医学社、価格：3,900円＋税	
参考書	・松村譲兒：『イラスト解剖学』中外医学社、価格：7,600円＋税 ・松村譲兒：『イラストでまなぶ解剖学』医学書院、価格：2,730円＋税・田中 越郎：『イラストでまなぶ生理学』医学書院、価格3,150円＋税	
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）：解剖学(50%)、生理学(50%)	
授業の留意点・授業外の学習活動など	解剖学をマスターする方法は普段からの復習をする着実な努力が必要です。人体のしくみを理解（解剖学）した上で、働き（生理学）が理解できます。生理学の理解には考える力が必要です。解剖学の教科書と合わせた学習を心掛けてください。	
教員紹介	病院の経験を経て、東京都内　医師会看護学校に勤務していた。 医療と教育の双方の経験を活かし、現在教鞭を取っている。	

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	臨床医療学Ⅰ	山本寛/学科教員	3単位・45時間

授業の概要（授業の目的）	医療従事者に求められる医療の基本や医の倫理を説明できるようにする。各疾患（呼吸器・循環器・消化器・腎臓疾患、膠原病、アレルギー・免疫疾患、血液疾患、内分泌・代謝疾患、感染症、再生医療）の発生機序や特徴、病態を説明できるようにする。	
授業の到達目標（学生の行動目標）	医療従事者に求められる医療の基本や医の倫理を説明できる。各疾患（呼吸器・循環器・消化器・腎臓疾患、膠原病、アレルギー・免疫疾患、血液疾患、内分泌・代謝疾患、感染症、再生医療）の発生機序や特徴、病態を説明できる。	
授業計画	医学総論 第1回：医学の定義・健康とは 第2回：ICF（国際生活機能分類） 第3回：ICF（国際生活機能分類） 病理学 第4回：疾病の概要 第5回：細胞・組織とその障害・再生と修復 第6回：循環障害 第7回：炎症 第8回：疾患と免疫のかかわり 第9回：先天異常（奇形・代謝異常） 第10回～第11回：腫瘍	内科学 第12回：内科学とは・内科的診断・臨床検査 第13回：症候学 第14回～第15回：循環器疾患 第16回：呼吸気疾患 第17回：消化器疾患 第18回：肝胆膵疾患 第19回：血液疾患・腎疾患 第20回：代謝性疾患 第21回：内分泌疾患 第22回～第23回：免疫・アレルギー疾患
教科書	渡辺照男；病理学，ヌーベルヒロカワ，2019/12/20 前田眞治他；標準理学療法学・作業療法学・内科学，医学書院，第4版 2020/11/15	
参考書	横井豊治他；標準理学療法学・作業療法学・病理学，医学書院，第5版 2017/2/1	
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%：内訳：医学総論10%、病理学30%、内科学60%）	
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業を大切にしてください。予習として、専門用語を正しく理解できるように講義前に教科書を熟読してください。復習として教科書を基本に配布プリントの重要項目をまとめ・整理し、また確認問題の誤文を正文に修正を行ってください。講義・解説の中での参考情報は、プリントに書き込むなど工夫すると、疾病への理解・興味が増すことと思います。日常生活の中で身近な疾病に関心を持って下さい。毎回その日の授業内容を確認し、反復学習することが大切です。	
教員紹介	山本：医療系大学での40年に及ぶ医療技術者教育の経験を活かし、学生が医療人として信頼される医療行為が行えるよう講義します。学習者が疾病の本態を理解し、患者様とのコミュニケーション能力を身に付けられることを願っています。	

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	臨床医療学Ⅱ	林宏拓・図師みどり・学科教員	2単位・30時間

授業の概要（授業の目的）	言語聴覚療法に関わる臨床薬学や救急救命、画像の基礎知識、リハビリテーションに関わる栄養の基礎知識を修得することを目的とする。高度化する医療ニーズに対応するために、救急医学や救急時の指標、薬理、画像を説明できるようにする。人間に必要な栄養素や栄養量、水分量、栄養評価を説明できるようにする。	
授業の到達目標（学生の行動目標）	言語聴覚療法に関わる臨床薬学や救急救命、画像の基礎知識、リハビリテーションに関わる栄養の基礎知識を理解する。高度化する医療ニーズに対応するために、救急医学や救急時の指標、薬理、画像を説明できる。人間に必要な栄養素や栄養量、水分量、栄養評価を説明できる。	
授業計画	臨床薬理学　林宏拓 第1回：臨床薬学① 第2回：臨床薬学② 第3回：臨床薬学③ 第4回：臨床薬学④ 救急救命　　木村欣司 第5回:救命救急の全体像とリハ職の立ち位置 第6回：ABCアプローチとバイタルサインの見方 第7回：代表的救命救急疾患（脳・呼吸・外傷）とリハの視点 第8回：一次救命処置（BLS）・災害医療とリハ職の役割	リハビリテーション栄養 第9回：人間に必要な栄養素と水分量 第10回：栄養指標 第11回：栄養スクリーニング 第12回：栄養アセスメント 医用画像　山崎曉 第13回：CT/MRIの見方 第14回：脳画像の見方 第15回：脳疾患の画像の見方
教科書	なし	
参考書	なし	
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）：臨床薬理(25%)、救急救命(25%)、リハビリテーション栄養(25%) 医用画像(25%)	
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業資料は配布します。	
教員紹介	林宏拓：医師。聖パウロ病院勤務。 図師みどり：管理栄養士。	

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	臨床医療学Ⅲ	時岡一幸/赤坂徹/ 林義巳/岩戸徹	3単位・45時間

授業の概要 (授業の目的)	言語聴覚療法に関わる小児・形成外科領域・歯科領域の疾患・病態の基礎知識を修得する。脳性麻痺、重症心身障害、知的障害、自閉症スペクトラム障害、てんかん、筋疾患の病態・検査・治療を説明できるようにする。創傷治癒・熱傷、頭頚部・歯科領域の先天性疾患、全身疾患の特徴を説明できるようにする。	
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語聴覚療法に関わる小児・形成外科領域・歯科領域の疾患・病態の基礎知識を理解する。脳性麻痺、重症心身障害、知的障害、自閉症スペクトラム障害、てんかん、筋疾患の病態・検査・治療を説明できる。創傷治癒・熱傷、頭頚部・歯科領域の先天性疾患、全身疾患の特徴を説明できる。	
授業計画	形成外科学（時岡一幸） 第1回：総論（皮膚の構造、創傷治癒、形成外科の基本手技） 第2回：植皮術（遊離植皮術と皮弁） 第3回：外傷（外傷総論、顔面軟部組織外傷、顔面骨骨折） 第4回：熱傷、特殊な外傷（凍傷、電撃症、など） 第5回：慢性創傷（難治性潰瘍）、再建外科（頭頚部再建） 第6回：先天性疾患（頭部・顔面、四肢、体幹など） 第7回：口唇口蓋裂（分類・疫学・発生・病理、新生児期・乳児期の治療） 第8回：口唇口蓋裂（幼児期・就学期の治療）	小児科学（林義巳・岩戸徹） 第9回：正常発達①（岩戸） 第10回：正常発達②（岩戸） 第11回：脳性麻痺（岩戸） 第12回：内部疾患（岩戸） 第13回：重症心身障害（林） 第14回：筋ジストロフィー（林） 第15回：けいれん性疾患（林） 臨床歯科医学・口腔外科学（赤坂徹） 第16回：歯・歯周組織の解剖と疾患 第17回：口腔・顎・顔面の外傷・炎症・腫瘍 第18回：口腔粘膜の疾患 第19回：口腔と全身疾患のかかわり 第20回：加齢による変化と機能障害 第21回：口腔ケアと摂食嚥下機能障害 第22回：先天異常 第23回：まとめと演習
教科書	臨床歯科医学：夏目長門編：『言語聴覚士のための基礎知識　臨床歯科医学・口腔外科学第2版』医学書院、価格：4,200円＋税	
参考書	臨床歯科医学：高橋和人編：『自分でつくるぬりえ口腔解剖学ノート（第4版）』学建書院	
成績評価の方法・基準	筆記試験(100%)：形成外科学(35%)、小児科学(30%)、臨床歯科医学・口腔外科学(35%)	
授業の留意点	形成外科学：PCプレゼンテーション形式 臨床歯科医学：講義の内容を効率的に理解するために各自予習をして下さい。	
教員紹介	時岡：埼玉医科大学　形成外科・美容外科　教授 赤坂：神奈川歯科大学　全身管理歯科学講座　障害者歯科学分野　診療科講師	

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	精神神経医学	佐藤和夫/天野カオリ/中村晃一	4単位・60時間

授業の概要 （授業の目的）	言語聴覚療法に関わる言語認知系の基本的な構造と機能、疾患・病態の基礎知識を修得することを目的とする。神経系（中枢神経系、末梢神経系）の基本的な構造と機能、基本的な神経学的検査、主要な疾患・病態、診断、治療、および精神医学系の精神症状や基本的な精神医学的検査、主要な疾患・病態、診断、治療を説明できるようにする。
授業の到達目標 （学生の行動目標）	言語聴覚療法に関わる言語認知系の基本的な構造と機能、疾患・病態の基礎知識を理解する。神経系（中枢神経系、末梢神経系）の基本的な構造と機能、基本的な神経学的検査、主要な疾患・病態、診断、治療、および精神医学系の精神症状や基本的な精神医学的検査、主要な疾患・病態、診断、治療を説明できる。
授業計画	臨床神経学（佐藤和夫） 第1回：神経学総論（症候・検査・診断・治療） 第2回：中枢神経の感染症 第3回：脳血管障害（脳卒中） 第4回：脱髄疾患、変性疾患（1） 第5回：変性疾患（2）、認知症 第6回：筋疾患・神経筋接合部疾患 第7回：脳腫瘍・頭部外傷、その他 第8回：重要事項まとめ 神経系の構造・機能・病態 （天野カオリ） 第9回：神経学総論（発生・中枢神経と末梢神経） 第10回：脊髄・髄膜の構造と機能／脳脊髄液 第11回：脳の区分と脳の機能Ⅰ（終脳と間脳） 第12回：脳の機能Ⅱ（脳幹）・脳の機能Ⅲ 第13回：神経伝導路Ⅰ・神経伝導路Ⅱ 第14回：脳神経総論 第15回：続伝導路・脳神経各論 第16回：脳の血管系Ⅰ（動脈・静脈系） 第17回：脳の血管系Ⅱ（血管障害による症状と運動障害） 第18回：末梢神経各論Ⅰ（皮神経・頸部・上肢の神経系） 第19回：末梢神経各論Ⅱ（下肢の神経系） 第20回：脳神経各論Ⅰ（嗅神経～外転神経） 第21回：脳神経各論Ⅱ（三叉神経～内耳神経） 第22回：脳神経各論Ⅲ（舌咽神経～舌下神経） 第23回：神経系まとめ 第24回：神経系まとめ 精神医学（中村晃一） 第25回：気分障害 第26回：統合失調症 第27回：神経症圏の障害 第28回：アディクション 第29回：パーソナリティー障害・摂食障害 第30回：精神領域で用いられるコミュニケーション技術
教科書	臨床神経学：永井知代子：15章で学ぶビジュアル臨床神経学、医歯薬出版 神経系：坂井建雄：『プロメテウス解剖コアアトラス第4版』、医学書院、9,500円＋税
参考書	病気がみえる vol.7 脳・神経（第2版）、医療情報科学研究所
成績評価の方法・基準	筆記試験(100%)：臨床神経学(30%)、神経系(40%)、精神医学(30%)
授業の留意点・授業外の学習活動など	臨床神経学：授業では「臨床神経学・マイノート」を必ず準備ください。授業中、適宜質疑応答の時間を設定するので有意義に活用してください。
教員紹介	佐藤：チューリッヒ生命医長。産業医、医療法人社団優和会 天野：神奈川大学　大学院歯学研究科・解剖学 中村：精神領域で長年臨床を積んできた作業療法士

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	聴覚医学	物部寛子/馬場信太朗・吉冨愛・芦野聡子	3単位・45時間
授業の概要 (授業の目的)	言語聴覚療法に関わる聴覚系の基本的な構造と機能、疾患・病態の基礎知識を修得することを目的とする。聴覚系と前庭平衡系の基本的な構造と機能、検査、主要な疾患・病態、診断、治療を説明できるようにする。聴覚障害に合併する症状（めまい、耳鳴り、聴覚過敏、耳閉塞感等）を説明できるようにする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語聴覚療法に関わる聴覚系の基本的な構造と機能、疾患・病態の基礎知識を理解する。聴覚系と前庭平衡系の基本的な構造と機能、検査、主要な疾患・病態、診断、治療を説明できる。聴覚障害と合併する症状（めまい、耳鳴り、聴覚過敏、耳閉塞感等）を説明できる。		
授業計画	耳鼻科（物部寛子） 第1回:胎児発生から平衡聴覚器機発生のしくみ 聴覚前庭系の解剖と生理 第2回：耳科学的検査（聴覚、平衡機能検査、眼球運動検査） 第3回：外耳・中耳・内耳・聴覚路・顔面神経・前庭・平衡系の疾患と症候、診断、治療 第4回：成人聴覚検査、小児聴覚検査、鑑別診断、人工聴覚器の適応、聴覚・平衡リハビリテーション	聴覚系の構造・機能・病態 （馬場信太朗・吉冨愛・芦野聡子） 第5~8回：聴覚系の解剖生理学 第9~15回：外耳・中耳・内耳疾患の病態と検査 第16~23回:聴覚障害児の言語習得と言語指導	
教科書	田山二朗 編：言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学（第3版）、医学書院、4,000円＋税 資料配布		
参考書			
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）：耳鼻科(30%)、聴覚系(70%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	積極的に授業へ参加すること。		
教員紹介	物部：日本赤十字社医療センター　耳鼻咽喉科　医師 馬場：東京都立小児総合医療センター　耳鼻咽喉科　医長 吉冨：東京都立小児総合医療センター　耳鼻咽喉科　医長 芦野：田中美郷教育研究所　言語聴覚士		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音声言語医学	吉原晋太郎・西片裕	4単位・60時間

授業の概要 (授業の目的)	言語聴覚療法に関わる呼吸・発声発語系の基本的な構造と機能、疾患・病態の基礎知識を習得することを目的とする。呼吸器、喉頭、咽頭、鼻腔、口腔の基本的な構造と機能、検査、主要な疾患・病態、診断、治療を説明できるようにする。	
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語聴覚療法に関わる呼吸・発声発語系の基本的な構造と機能、疾患・病態の基礎知識を理解する。呼吸器、喉頭、咽頭、鼻腔、口腔の基本的な構造と機能、検査、主要な疾患・病態、診断、治療を説明できる。	
授業計画	咽喉科（吉原慎太郎） 第1回：鼻副鼻腔疾患 第2回：口腔・咽頭・唾液腺疾患、構音障害 第3回：喉頭・気管・頸部の疾患、音声障害と発声障害、気道の問題 第4回：摂食嚥下障害のメカニズム、検査、治療、リハビリテーション 呼吸発声発語系の構造・機能・病態（西片裕） 第5回：呼吸器系の基本構造 第6~7回：吸気筋と呼気筋 第8回：安静時呼吸と深呼吸 第9回：肺容量、発声時呼吸	第10回：呼吸機能検査、異常呼吸 第11~12回：喉頭の基本構造と機能 第13~14回：喉頭筋と関節運動 第15回：声帯と仮声帯 第16~17回：発声メカニズム 第18回：鼻咽腔閉鎖機能 第19回：顔面表情筋と顔面運動 第20回：咀嚼筋と下顎運動 第21回：口腔の構造、舌筋と舌運動 第22回～第30回：呼吸・発声発語系に関与する脳神経、観察所見、障害
教科書	資料配布	
参考書	坂井建雄監訳：『プロメテウス解剖学コアアトラス』　医学書院、9500円＋税	
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）：咽喉科(30%)、呼吸発声発語(70%)	
授業の留意点・授業外の学習活動など		
教員紹介	吉原：日本赤十字医療センター　医師 西片：呼吸発声発語障害領域での実務経験がある言語聴覚士	

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1年生	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	認知・学習心理学	藤枝　幹大	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	人間のさまざまな反応や行動の仕組みを概観し、客観的・科学的な視点を身につけつつ、人間の「心」とは何かを理解していく。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・心理学がどのような学問かを説明できる。 ・心理学の方法論を説明できる。 ・各心理学用語を説明できる。 ・日常の人間行動について心理学用語を用いて表現できる。		
授業計画	授業は主に心理学用語の説明になります。特に国家試験に出題されている用語は正確に理解して覚えましょう。 第1回：心理学の視点／心理学の歴史 第2回：科学とは何か／心理学の方法 第3回：感覚の分化と統合 第4～5回：視覚 第6～8回：条件づけ 第9～10回：技能学習 第11～12回：記憶 第13回：問題解決 第14回：知識 第15回：推論と発見		
教科書	・鹿取廣人／杉本敏夫／鳥居修晃／河内十郎［編］『心理学［第5版補訂版］』　東京大学出版会　2,400円＋税		
参考書	・詫摩武俊［編］　『心理学［改訂版］』　新曜社　1,700円＋税 ・長谷川寿一／東條正城／大島尚／丹野義彦／廣中直行［著］『はじめて出会う心理学』　有斐閣アルマ　2,000円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	これまではあまり意識してこなかった自分の行動を振り返って、そこに注意を向けてみましょう。同時に、他者に対する気配りを心がけてください。		
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は30年以上、心理臨床経験は25年以上になります。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1年生	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	生涯発達心理学	藤枝　幹大	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	さまざまな心的機能の発達を概観するとともに、縦断的な視点も身につけつつ、人間の「心の発達」を理解していく。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・生涯発達心理学がどのような学問かを説明できる。 ・発達心理学の方法論を説明できる。 ・各発達心理学用語を説明できる。 ・実際の人間の発達現象について心理学用語を用いて説明できる。
授業計画	授業では教科書を精読し、用語を正確に理解していきます。国試頻出用語は覚えましょう。 第1回：発達の生物学的基礎 第2回：生態学的な視点 第3回：発達の過程 第4回：初期経験と臨界期 第5回：発達を支える社会的・文化的環境 第6回：乳児期―「もの」からなる世界の認知 第7回：運動の発達―子どもを世界へとつなぐもの 第8回：前言語的コミュニケーション／事例1、2、3 第9回：幼児前期における認知の発達 第10回：養育者の役割／事例4、5、6 第11回：就学前後における認知の発達 第12回：集団の中でのかかわり―事例7、8、9 第13回：学童期における認知の発達 第14回：対人関係の展開 第15回：自己の形成／事例10、11、12、13
教科書	・高橋道子／藤﨑眞知代／仲真紀子／野田幸江［著］『子どもの発達心理学』新曜社　1,900円＋税
参考書	・鹿取廣人／杉本敏夫／鳥居修晃／河内十郎［編］『心理学［第5版補訂版］』　東京大学出版会　2,400円＋税
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）
授業の留意点・授業外の学習活動など	自分自身がどのように発達してきたかをできるだけ客観的に振り返ってみましょう。
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は30年以上、心理臨床経験は25年以上になります。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1年生	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	臨床心理学	藤枝　幹大	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	心理臨床活動とはどのようなものかを理解することによって、作業・理学・言語聴覚・介護にも共通する「臨床」の本質を探求していく。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・臨床心理学がどのような学問かを説明できる。 ・臨床心理学の方法論を説明できる。 ・各臨床心理学用語を説明できる。 ・臨床実践として対象者の心理状態を推測し、適切な行動がとれる。 ・臨床家として独自の臨床観をもてるような心理的構えができる。		
授業計画	第1回：自己カウンセリング（演習） 第2回：臨床心理学の定義と基本構造 第3回：臨床心理学の歴史 第4～5回：正常と病理の概念―ディスカッション（演習） 第6～7回：面接による心理アセスメント 第8～9回：観察による心理アセスメント 第10～12回：検査による心理アセスメント（一部演習：検査の実施） 第13回：パーソナリティー／情動／知能 第14～15回：各種心理療法概論		
教科書	・下山晴彦［編］『よくわかる臨床心理学［改訂新版］』ミネルヴァ書房　3,000円＋税 ・鹿取廣人／杉本敏夫／鳥居修晃／河内十郎［編］『心理学［第5版補訂版］』東京大学出版会　2,400円＋税		
参考書	・加藤義明／中里至正／鳴澤實［編著］『入門臨床心理学』　八千代出版　2,300円＋税 ・野島一彦［編著］『臨床心理学への招待［第2版］』　ミネルヴァ書房　2,600円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	臨床の根幹はコミュニケーションです。特に非言語的コミュニケーションに注意を向けてください。また、本授業と認知・学習心理学、生涯発達心理学、心理学演習Ⅰ、Ⅱを通して、より深く自分自身を知っていくことが本質的な目的となります。		
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は30年以上、心理臨床経験は25年以上になります。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	心理学演習Ⅰ	藤枝幹大 学科教員	1単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	心的機能の発達的研究から抽出された種々の発達理論を調べ、理解する。その理解を他者に伝え共有するためにディスカッションおよび発表を行う。どうしたら十分に伝えられるか（プレゼンテーションの仕方）を考える。延いては人が「生きる」とはどういうことかを考察する。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・各発達心理学用語を説明できる。 ・各発達理論を説明できる。 ・実際の人間の発達現象について心理学用語を用いて説明できる。
授業計画	第1回：オリエンテーション ・班分け、資料配布、レジュメの作り方、発表の仕方 ・発表する発達理論の紹介 第2～9回：発表に向けたディスカッション（打合せ） 第10回：発表；認知的発達理論（Piaget,J.） 第11回：発表；心理・性的発達理論（Freud,S.） 第12回：発表；心理・社会的発達理論（Erikson,E.H.） 第13回：発表；愛着理論（Bowlby,J.） 第14回：発表；社会的学習理論（Bandura,A.） 第15回：発表；発達と教育・研究法（教科書p.170～p.188）
教科書	・高橋道子／藤崎眞知代／仲真紀子／野田幸江［著］『子どもの発達心理学』新曜社　1,900円＋税
参考書	・鹿取廣人／杉本敏夫／鳥居修晃／河内十郎［編］『心理学［第5版補訂版］』東京大学出版会　2,400円＋税 ・各発達理論の資料は授業時に配布する
成績評価の方法・基準	・発表・ディスカッションにおけるソーシャル・スキル（50%） ・筆記試験（小論文；50%）
授業の留意点・授業外の学習活動など	発表は結果よりも過程を重視します。目標（ゴール）を明確にして、同じ班の人たちと協力し合って、どうしたら目標を達成できるかというソーシャル・スキルを学び、磨いてください。
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は30年以上、心理臨床経験は25年以上になります。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	心理学演習Ⅱ	藤枝幹大 学科教員	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	臨床現場から抽出された種々の心理療法を調べ、理解する。その理解を他者に伝え共有するためにディスカッションおよび発表を行う。どうしたら十分に伝えられるか（プレゼンテーションの仕方）を考える。延いては「臨床とは何か」といった「臨床」の本質を探っていく。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・各臨床心理学用語を説明できる。 ・各心理療法を説明できる ・臨床実践として対象者の心理状態を推測し、適切な行動がとれる。 ・臨床家として独自の臨床観をもてるような心理的構えができる。		
授業計画	第1～2回：発表に向けたディスカッション（打合せ） 第3回：発表；精神分析療法 第4回：発表；認知行動療法 第5回：発表；クライエント中心療法 第6回：ビデオ鑑賞『グロリアと3人のセラピスト』①／シェアリング 第7回：発表；ゲシュタルト療法 第8回：ビデオ鑑賞『グロリアと3人のセラピスト』②③ 第9回：発表；催眠療法／自律訓練法 第10回：発表；遊戯療法／箱庭療法 第11回：発表；交流分析 第12回：発表；森田療法／内観療法 第13回：模擬カウンセリング 第14回：発表；家族療法 第15回：発表；集団療法 定期試験（授業回数に含みません）：筆記（小論文）		
教科書	下山晴彦［編］『よくわかる臨床心理学［改訂新版］』ミネルヴァ書房 3,000円＋税		
参考書	各心理療法の資料は授業時に配布する		
成績評価の方法・基準	・発表・ディスカッションにおけるソーシャル・スキル（50%） ・筆記試験（小論文；50%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	発表は結果よりも過程を重視します。目標（ゴール）を明確にして、同じ班の人たちと協力し合って、どうしたら目標を達成できるかというソーシャル・スキルを学び、磨いてください。		
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は30年以上、心理臨床経験は25年以上になります。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	心理学演習Ⅲ	学科教員	1単位・30時間

授業の概要 （授業の目的）	臨床心理学における主要なアセスメントについて演習を通して理解を深めることを目的とする。主要なアセスメント（知能検査：ウェクスラー式知能検査、コース立方体組み合わせテスト、MMSE、日本版レーヴン色彩マトリックス検査等／言語検査：標準失語症検査等／発達検査：PVT-R 絵画語い発達検査等／人格検査：Y-G 性格検査、MMPI 等）について演習を行い、実施できるようにする。	
授業の到達目標 （学生の行動目標）	臨床心理学における主要なアセスメントについて演習を通して理解を深める。主要なアセスメント（知能検査：ウェクスラー式知能検査、コース立方体組み合わせテスト、MMSE、日本版レーヴン色彩マトリックス検査等／言語検査：標準失語症検査等／発達検査：PVT-R 絵画語い発達検査等／人格検査：Y-G 性格検査、MMPI 等）を実施できる。	
授業計画	第1回：コース立方体組み合わせテスト 第2回：レーブン色彩マトリックス検査 第3回：MMSE 第4回：標準失語症検査 第5回：標準失語症検査 第6回：標準失語症検査 第7回：標準失語症検査 第8回：標準失語症検査 第9回：標準失語症検査	第10回：ウェクスラー式知能検査 第11回：PVT-R 絵画語い発達検査 第12回：Y-G 性格検査・MMPI 第13回：検査の復習と実技 第14回：検査の復習と実技 第15回：検査の復習と実技
教科書	なし	
参考書	各種検査マニュアル	
成績評価の方法・基準	実技試験（100%）	
授業の留意点・授業外の学習活動など		
教員紹介	高次脳機能障害・認知症の実務経験がある言語聴覚士または公認心理師	

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	言語学	小松　雅彦	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	言語学と日本語学の基礎を理解し習得する授業です。ふだん無意識に使っている言葉の仕組みを学びます。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語学と日本語学の基本的な概念を理解する。基礎的な用語を習得し説明できる。言語現象を分析し、言語学・日本語学の用語を使って記述できる。		
授業計画	第1回　ガイダンス、言語学の基礎 第2回　音声学 第3回　音韻論 第4回　音韻論（続き） 第5回　練習問題、まとめ 第6回　形態論 第7回　統語論 第8回　日本語文法 第9回　練習問題、まとめ 第10回　意味論 第11回　語用論 第12回　練習問題、まとめ 第13回　文字論、類型論・対象言語学 第14回　社会言語学、敬語 第15回　練習問題、まとめ		
教科書	日野資成（2009）『ベーシック現代の日本語学』東京：ひつじ書房. 価格：1,700円＋税		
参考書	大森孝一 他（編）（2025）『言語聴覚士テキスト』（第4版）. 東京：医歯薬出版. 価格：4,600円＋税 今泉敏・小澤由嗣（編）（2020）『音声学・言語学』（第2版）. 東京：医学書院.（言語聴覚士のための基礎知識）価格：4,000円＋税 岩田一成・岩﨑淳也（編）（2022）『言語学・言語発達学』. 東京：メジカルビュー社.（Crosslink 言語聴覚療法学テキスト）価格：4,000円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	ふだん自分が使っている言葉についての授業です。無意識に知っている言葉の仕組みを意識してみましょう。教科書に出てくる例だけでなく、色々な表現を思い浮かべながら考えてください。試験は国家試験を意識したものとしますが、暗記だけでなく理解することを心掛けてください。よく分からないことがあれば、授業時に積極的に質問してください。		
教員紹介	専門は言語学、音響音声学です。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音声学	田中邦佳	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	「音」に関する分野である音声学、音韻論に関する知識を一通り得ることを目的とする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・音声記号の読み書きを行う ・日本語の音声に見られる様々な体系的な事項について説明する ・実際の音声現象を客観的に分析しその規則性を記述して説明する		
授業計画	第1回：音声学とは 第2回：音声器官と調音点 第3回：調音方法 第4回：国際音声字母（IPA） 第5回：子音① 第6回：子音② 第7回：母音① 第8回：母音② 第9回：音節とモーラ 第10回：音の並びの規則（phonotactics） 第11回：アクセント① 第12回：アクセント② 第13回：イントネーション 第14回：音素 第15回：音声学と音響学		
教科書	斎藤 純男：『日本語音声学入門（改訂版）』三省堂、価格：2,000円＋税		
参考書	今泉 敏（編）：『言語聴覚士のための基礎知識　音声学・言語学』 医学書院、価格：3,800円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（80%）、課題の提出状況（20%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	調音器官の動きを意識しながら音を発して、自分がどのように調音しているか、その感覚を自分で掴むことが理解に繋がります。覚えておくことが必要な項目もありますが、その知識を利用し、身近な音声現象例を分析し、言葉で説明できるようになることは、音声知識の実用に不可欠なことです。自ら発音して実感し、分析・考察することが理解に繋がります。		
教員紹介	第二言語習得における音声の生成および知覚について研究しています。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1年生	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音響学	田中邦佳	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	どのように発音するのかを学ぶのが音声学なら、発音された音声が物理的にどのような特性を持っているかを学ぶのが音響学です。本授業では、音声の物理的な特性およびその理論についての知識を得ることが目的です。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・音声の物理的特性に関する各種計算を行う ・理論について理解し、図や表のデータを読み取り、そのデータで何が示されているのかを説明する ・音声の音響分析を行う
授業計画	第1回：音の物理 第2回：音響分析とは 第3回：純音の特性 第4回：音の周波数・波長 第5回：フーリエ変換 第6回：スペクトル・スペクトログラム 第7回：共鳴 第8回：倍音 第9回：ソース・フィルター理論 第10回：母音の音響的特徴 第11回：子音の音響的特徴 第12回：音声のデジタル化 第13回：デシベル計算1 第14回：デシベル計算2 第15回：まとめ ※学習理解度に応じて、授業の順番が変更になる場合があります。
教科書	吉田 友敬：『言語聴覚士のための音響学入門』 海文堂、価格：2,600円＋税
参考書	青木 直史：『ゼロからはじめる音響学』 講談社、価格：2,600円+税
成績評価の方法・基準	試験（80%）、課題の提出状況（20%）
授業の留意点･授業外の学習活動など	音響学は、なかなか理解が難しいかもしれませんが、大まかなストーリー（順番）を把握できるようになりましょう。また、実際の発話音声の音響特性の観察が理論の理解には必要です。音声の音響分析では、Praat というソフトウェアを無料で使用できます。http://www.fon.hum.uva.nl/praat/
教員紹介	第二言語習得における音声の生成および知覚について研究しています。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	聴覚心理学	田嶋　圭一	1単位・15時間

授業の概要 (授業の目的)	人間の感覚様相（いわゆる五感）の中でも視覚に次いで重要かつ言語コミュニケーションにとって不可欠とされる「聴覚」の仕組みについて学びます。我々は周囲の音の様々な特性をどのように聞き取っているのか，それはどのようなメカニズムによって成り立っているのかについて理解を深めることを目的とします。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	音の様々な特徴（大きさ，高さ，音色，音源の位置など）を我々はどのように知覚しているのかについて理解を深め，他者に分かりやすく説明できるようになることを授業の目標とします。
授業計画	第1回　導入，音の大きさの知覚（1） 第2回　音の大きさの知覚（2） 第3回　マスキングと臨界帯域（1） 第4回　マスキングと臨界帯域（2） 第5回　音の高さの知覚（1） 第6回　音の高さの知覚（2） 第7回　空間知覚（1） 第8回　空間知覚（2），授業のまとめ
教科書	吉田友敬（2020）.『言語聴覚士の音響学入門』，海文堂.（2,600円＋税） 上記の書籍のほかに，授業にて適宜資料を配布します。
参考書	B.J.C.ムーア（著）・大串健吾（監訳）（1994）.『聴覚心理学概論』，誠信書房.（4,500円＋税） 重野純（2014）.『音の世界の心理学（第2版）』，ナカニシヤ出版.（2,600円＋税）
成績評価の方法・基準	課題30%，筆記試験70%の割合で評価する予定です。授業内容に関わる課題を学期中に出題します。また，授業全体の内容の理解度を確認するための筆記試験を講義終了後に行います。
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業では講義に加えて個人またはグループで課題に取り組む時間を設ける予定ですので，積極的に参加してください。また，自分で毎回の課題に取り組むことで授業外でも復習・理解度チェックを行ってください。
教員紹介	専門は実験音声学，音韻論，言語学，心理言語学です。話し言葉の産出・知覚・学習のプロセスに興味があり，特に外国語の音声を人がどのように発話・聴取・習得するのかについて研究しています。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	言語発達学	霍間　郁実	1単位・15時間

授業の概要 (授業の目的)	ことばに関わる支援を行うための基礎として、ヒトがどのように言語を獲得するかを知り、言語発達のプロセスを把握する。同時に、各発達段階における言語発達の特徴を理解する。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・ことばの発達のプロセスを全般的な発達の中でとらえることができる。 ・各発達段階における言語発達の特徴を理解し、説明できる。
授業計画	第1回　言語発達理論 第2回　言語発達理論 第3回　言語発達の様相（1）新生児期 第4回　言語発達の様相（2）乳幼児期 第5回　言語発達の様相（3）乳幼児期 第6回　言語発達の様相（4）乳幼児期～学童期 第7回　言語発達の様相（5）学童期 第8回　言語発達と障害
教科書	随時資料を配布する。
参考書	岩立志津夫・小椋たみ子『やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ「よくわかる言語発達」』（ミネルヴァ書房、2012年）
成績評価の方法・基準	筆記試験100%
授業の留意点・授業外の学習活動など	内容の区切りごとに復習プリントを配布します。講義のポイントを振り返り、復習や試験対策に役立ててください。
教員紹介	大学教員として、義務教育や高等教育の現場で、障害児者への支援・指導に携わってきました。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語認知学	西片　裕	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	言語の認知過程の基礎知識を修得することを目的とする。言語の情報処理（語・文・構文の理解・産生)、談話の情報処理（談話の種類や構造、談話分析等）について説明できるようにする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語の認知過程の基礎知識を理解する。言語の情報処理（語・文・構文の理解・産生)、談話の情報処理（談話の種類や構造、談話分析等）について説明できる。		
授業計画	第1回：言語の情報処理とは 第2~9回：ロゴジェンモデルと障害 第9~11回：文の構成要素・基本構造、主題役割、文の種類 第12~13回：構文理解のストラテジーと障害 第14回：構文産生と障害 第15回：談話分析		
教科書	資料配布		
参考書	藤田郁代・菅野倫子（編集)：わかる！使える！日本語の文法障害の臨床、医学書院（5400円＋税）		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	プリントには余白を多くとってあり、授業中のノートとしても書き込めるようにしています。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の言語障害領域での実務経験をもつ教員が、臨床経験を踏まえて講義します。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義・演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	コミュニケーション学	鈴木真生	1単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な基本的コミュニケーションが理解できる。 ・言語聴覚士に必要なコミュニケーション技能（スキル）が理解できる。 ・言語聴覚士に必要なコミュニケーション活動が実践できる。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・コミュニケーションの成り立ち、方法、技能が説明できる。 ・相手の話を傾聴し、共感することができる。 ・非言語情報を読み取り、相手への理解を深めることができる。 ・相手に合わせた伝達方法が説明できる。 ・良好な人間関係に与える影響が説明できる。 ・演習を通してコミュニケーション技能（スキル）について発展させることができる。
授業計画	コミュニケーションは他者と関わりにおいて必要不可欠である。言語聴覚士に必要なコミュニケーション技能（スキル）の在り方について理解を深め、自らのコミュニケーション技能（スキル）を客観的に捉えるため演習を行う。 ◆各回で講義・演習を行う予定。 ◆単元ごとに小課題（演習の感想を含む）を実施し、学習の理解を深める。 第1～2回　オリエンテーション コミュニケーションとコミュニケーションスキル 第3～4回　言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 第5～7回　傾聴／傾聴を活かしたコミュニケーション 第8～10回　正しく伝えること・相手にわかりやすく伝えることの重要性 第11～12回　協調性 第13～14回　言語聴覚士に必要なコミュニケーションスキル 第15回　総括
教科書	プリント随時配布
参考書	1）山口美和：PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド第2版、医学書院、価格2,800円＋税 2）松村真司・箕輪良行編集：コミュニケーションスキル・トレーニング～患者満足度の向上と効果的な診療のために～、医学書院、価格3,500円＋税
成績評価の方法・基準	レポート課題（70%）、小課題（30%）
授業の留意点・授業外の学習活動など	言語聴覚士に必要なコミュニケーション技能（スキル）は、見学実習、評価実習、総合臨床実習で対象者と関わる際に活用することを念頭に置く。
教員紹介	25年以上、教員として学生教育に携わってきました。臨床経験・教員経験で得たことをふまえ、基本的コミュニケーションとコミュニケーション技能（スキル）について講義・演習を通して指導します。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義・演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	リハビリテーション概論	佐治信一郎/OT・PT・CW科教員/木村欣司	1単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	リハビリテーションの理念と概念、リハビリテーション医療と概要および学校教育の基礎知識を修得することを目的とする。国際生活機能分類、障害の概念、教育・職業・社会・医療リハビリテーションの検査と方法を説明できるようにする。幼児教育・学校教育の基本概念とシステムを説明できるようにする。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	リハビリテーションの理念と概念、リハビリテーション医療と概要および学校教育の基礎知識を理解する。国際生活機能分類、障害の概念、教育・職業・社会・医療リハビリテーションの検査と方法を説明できる。幼児教育・学校教育の基本概念とシステムを説明できる。
授業計画	リハビリテーション概論 (OT・PT・CW科教員) 第1回：身体障害分野のOT 第2回：子どものOT 第3回：精神領域のOT 第4回：作業分析 第5回：介護とは 第6回：介護実技 第7回:リハビリテーションとPT 第8回：摂食嚥下患者へのPT的介入 第9回：摂食嚥下患者へのPT的介入 リハビリテーション医学（木村欣司） 第10回：リハビリテーション医学の理念とICF 第11回：障害の医学的理解と評価の考え方 第12回：主要疾患別リハビリテーションとSTの関与 第13回：チーム医療・病期別リハビリテーションとSTの役割 学校教育（佐治信一郎） 第14回：学校教育① 第15回：学校教育②
教科書	資料配布
参考書	理学療法分野『姿勢から介入する摂食嚥下脳卒中患者のリハビリテーション』メジカルビュー社
成績評価の方法・基準	筆記試験(100%):リハビリテーション概論(60%)、リハビリテーション医学(25%)、学校教育(15%)
授業の留意点・授業外の学習活動など	
教員紹介	リハビリテーション概論・リハビリテーション医学：多摩リハビリテーション学院専門学校　基幹教員 学校教育：羽村特別支援学校　相談員

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語聴覚障害総論	木村欣司 古谷祥宏	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	言語聴覚障害の基本概念と臨床の基礎、言語聴覚士の職務内容、職業倫理の基礎知識を修得することを目的とする。言語聴覚障害学の歴史、言語聴覚障害の種類・特性、言語聴覚士法の概要、業務、職業倫理、リスク管理、災害リハビリテーションの概要を説明できるようにする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語聴覚障害の基本概念と臨床の基礎、言語聴覚士の職務内容、職業倫理の基礎知識を理解する。言語聴覚障害学の歴史、言語聴覚障害の種類・特性、言語聴覚士法の概要、業務、職業倫理、リスク管理、災害リハビリテーションの概要を説明できる。		
授業計画	第1回～第2回：言語聴覚士の適正について 第3回：言語聴覚士について 第4回～第5回：言語聴覚士について及び言語聴覚士法・職業倫理 第6回～第8回：言語聴覚士の業務 第9回～第10回：言語聴覚士の臨床現場の実際 第11回：ことばと脳のしくみ・言語とコミュニケーション 第12回～第13回：バイタルサインについて 第14回：災害リハビリテーションについて 第15回：災害リハビリテーションについて ※教科書は、今後の学習のため購入していただきます。授業内では、適宜配布資料で対応します。 ※授業内容は他の講義の進行により変更する場合があります。		
教科書	大森孝一：「言語聴覚士テキスト　第4版」医歯薬出版株式会社、価格4,600円＋税		
参考書	藤田郁代監修：『言語聴覚障害学概論　第2版』医学書院、価格5,500円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	医療人として、また言語聴覚士を目指す者として大事な科目です。一緒に理解を深めていきましょう。		
教員紹介	言語聴覚士として、実務経験をもつ教員が学生に対し、言語聴覚療法に関わる前段階である、言語聴覚士の成り立ちや法律、倫理、医療人としての基本的態度などを学習する科目です。また、今後の言語聴覚療法各論の理解を促進するために、本科目では言語聴覚療法で携わるすべての障害を紹介する。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語聴覚障害臨床論	鈴木真生・山﨑聡 古谷祥宏	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚臨床の核となる評価・診断の目的と理念、過程が理解できる。 ・評価の基礎知識として、客観性・信頼性・妥当性、正常値・標準値、仮説の設定・検証が理解できる。 ・言語聴覚療法の臨床の流れ（臨床思考過程）が理解できる。 ・言語聴覚療法の評価・診断の目的や過程、種類、情報の整理・分析・統合および情報管理が説明できる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚療法の評価・診断の目的と基本理念が説明できる。 ・評価における客観性、妥当性、信頼性が説明できる。 ・評価における正常値・異常値（基準値、参照値）と個人差が説明できる。 ・障害仮説の設定・検証、臨床推論の考え方が説明できる。 ・臨床の流れ（臨床思考過程）が説明できる。		
授業計画	・臨床思考過程は、言語聴覚臨床に携わるうえで基盤となる。対象者の症状や障害像を捉え、発現機序を明らかにすることの重要性を学習し、評価実習、総合臨床実習で実践する。 第1～2回　オリエンテーション 言語聴覚療法の評価・診断の目的と理念 第3～6回　評価における客観性、妥当性、信頼性および正常値・異常値 第7～10回　障害仮説の設定・検証、臨床推論の考え方 第11～15回　臨床の流れ（臨床思考過程） ※授業の順番は変更になる場合がある。		
教科書	プリント随時配布		
参考書	適宜紹介		
成績評価の 方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	言語聴覚臨床の基盤となるため、自分で考える（思考する）ことの重要性を学び、評価実習、総合臨床実習に活用できるよう取り組むこと。		
教員紹介	長年、学生教育・臨床業務に携わってきた学科教員が担当します。臨床経験や教員経験で得たことをふまえ、言語聴覚臨床の基盤について講義します。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義・演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語聴覚障害学演習Ⅰ	鈴木真生・古谷祥宏	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・病院・施設の概要（病期を含む）が理解できる。 ・病期別の言語聴覚士の役割が理解できる。 ・言語聴覚臨床の実際が理解できる。 ・臨床観察の視点が理解できる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・病期別に病院・施設の概要が説明できる。 ・病期別の言語聴覚士の役割が説明できる。 ・様々な病院・施設における言語聴覚臨床の実際を学び、その内容が説明できる。 ・臨床観察の視点で記録ができる。		
授業計画	第1～2回　オリエンテーション／言語聴覚士の職域と役割について 第3～11回　言語聴覚臨床の実際 ※言語聴覚士が携わるコミュニケーション障害や病院・施設における言語聴覚士の役割等について学習する。 第12～15回　臨床観察の視点と記録の取り方 ※レポート課題は授業内で提示する。		
教科書	プリント随時配布		
参考書	適宜紹介		
成績評価の 方法・基準	臨床観察の記録（30%）、レポート課題（70%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	見学実習に向けて、言語聴覚臨床の実際を学ぶ。様々な病院・施設における言語聴覚臨床の実際をもとにイメージすることが望ましい。		
教員紹介	言語聴覚士の経験をもつ学科教員と病院や介護老人保健施設等に勤務されている言語聴覚士が、講義・演習と実践を通して言語聴覚臨床の実際について指導します。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語聴覚障害学演習Ⅱ	鈴木真生・木村欣司 西片裕・山﨑暁・古谷祥宏	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	言語聴覚臨床の流れ（臨床思考過程）をふまえ、言語・コミュニケーション障害と摂食嚥下障害における必要な基礎的な能力（障害仮説の考え方、検査・評価の目的と内容等）とこれまで学習した知識・技能を統合する力と考察力を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語・コミュニケーション障害、摂食嚥下障害における評価の流れをふまえ、検査の実施および結果の分析と情報を統合し、説明できる。 ・関連する障害について多角的に捉え、説明できる。		
授業計画	・評価実習に向けて総合的な演習を行う。 ・対象者の症状や障害像の捉え方について演習を交えて学習する。 ・実習に必要な基礎知識や情報を統合し解釈する能力、検査手技が備わっているか確認するため、筆記試験と実技試験を行う。 第1～2回　オリエンテーション／評価実習の進め方 第3～5回　失語症 第6～8回　高次脳機能障害 第9～11回　ディサースリア 第11～13回　摂食嚥下障害 第14～15回　総括 筆記試験（言語・コミュニケーション障害、摂食嚥下障害に関わる試験） 実技試験（言語・コミュニケーション障害、摂食嚥下障害に関わる各種検査） ※授業の順番は変更になる場合がある。		
教科書	プリント随時配布		
参考書	適宜紹介		
成績評価の 方法・基準	筆記試験（50%）・実技試験（50%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	・評価実習前の総復習となるため、各自主体的に取り組むこと。 ・本科目内では検査練習は実施しないため、実習前に各自で行うこと。		
教員紹介	長年、学生教育・臨床業務に携わってきた学科教員全員が担当します。臨床経験や教員経験で得たことをふまえ、基礎理論や症状や障害像の捉え方、評価の在り方について講義します。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語症学Ⅰ	西片　裕	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	失語症の基本的概念について基礎知識を修得することを目的とする。 失語症の歴史、脳における言語機能局在、失語症の定義・原因疾患、症状とその機序、タイプを説明できるようにする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	失語症の基本的概念について基礎知識を理解する。 失語症の歴史、脳における言語機能局在、失語症の定義・原因疾患、症状とその機序、タイプを説明できる。		
授業計画	第1回：失語症の歴史、大脳における言語機能の局在 第2～11回：失語症状 第12~15回：失語タイプ		
教科書	大塚裕一・宮本恵美（編著）：クリア言語聴覚療法2　失語症、建帛社（3000円＋税）		
参考書	菅野倫子・津田哲也（編集）：標準言語聴覚障害学　失語症学　第4版、医学書院（5200円＋税）		
成績評価の方法・基準	筆記試験(100%)　＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	適宜プリントを配布し、それに基づいて講義します。プリントは大量になるため、専用にファイリングするようにしてください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、臨床に役立つように講義します。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語症学Ⅱ	西片　裕	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	失語症の評価について基礎知識を修得することを目的とする。インテーク面接からスクリーニング検査の内容と方法、タイプと重症度の判定、各種失語症検査の目的と実施方法および結果の解釈方法を説明できるようにする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	失語症の評価について基礎知識を理解する。インテーク面接からスクリーニング検査の内容と方法、タイプと重症度の判定、各種失語症検査の目的と実施方法および結果の解釈方法を説明できる。		
授業計画	第1回：言語評価の内容と流れ 第2回：失語症の重症度 第3回：情報収集、インテーク面接、スクリーニング検査、ICF 第4~10回：SLTAの実施方法、解釈と考察、失語症例の呈示 第11~15回：重度失語症検査、CADL、掘り下げ検査		
教科書	都築澄夫監修・大塚裕一著：明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断－成人編 改訂第2版，医学と看護社（3900円＋税）		
参考書	小嶋知幸編著：失語症の評価と治療，金原出版，2010年，4800円＋税		
成績評価の方法・基準	レポート（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	検査を実施できるまで自己練習することが必須です。細かい点でも遠慮せずに質問してください。覚える検査が多いので、計画的に取り組んでください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、インテーク面接や各種検査の実施方法・解釈方法を講義します。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	高次脳機能障害学Ⅰ	山﨑　暁	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	高次脳機能障害の定義、原因疾患、背景症状、病巣、種類と症状、症状出現のメカニズムを理解する。視覚失認、半側空間無視、触覚失認、聴覚失認、失行、注意障害、記憶障害、遂行機能障害、前頭葉症状、半球離断症候群、認知症を高次脳機能障害の観点から理解する。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	高次脳機能障害の定義、原因疾患、背景症状、病巣、種類と症状、症状出現のメカニズムを説明できる。視覚失認、半側空間無視、触覚失認、聴覚失認、失行、注意障害、記憶障害、遂行機能障害、前頭葉症状、半球離断症候群、認知症を高次脳機能障害の観点から説明できる。
授業計画	第1回：高次脳機能障害の基本概念、高次脳機能障害の背景症状、高次脳機能障害のリハビリテーション、「脳の構造」と「こころ」の相関関係 第2回：ニューロンの構造と脳の構造（神経細胞と神経線維の分布）、ブロードマンの脳地図とペンフィールドの機能地図、大脳の栄養血管。前頭葉・頭頂葉・側頭葉・後頭葉の機能局在と側性化 第3回：視覚失認（統覚型、統合型、連合型、視覚性失語） 第4回：相貌失認、街並失認、地誌的見当識障害、純粋失読 第5・6回：半側空間無視の症状と病巣、症状出現のメカニズム 第7回：触覚失認、聴覚失認 第8回：病態失認、身体失認、ゲルストマン症候群 第9回：肢節運動失行、観念運動失行、観念失行、着衣失行 第10回：他人の手徴候、拮抗失行、道具の脅迫的使用、使用行動 第11・12回：記憶障害（記憶の過程、種類、記憶障害のとらえ方） 第13回：注意障害と遂行機能障害 第14回：前頭葉症状と半球離断症候群 第15回：認知症の原因疾患、認知症にみられる高次脳機能障害と周辺症状としての心理的・行動的変化（BPSD） ＊講義内で、頭部外傷等における臨床像にも触れる。
教科書	藤田郁代編集：標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学　第4版，医学書院，2025年，価格4,800円＋税
参考書	山鳥重，他：高次脳機能障害マエストロシリーズ（1）基礎知識のエッセンス，医歯薬出版株式会社，2007年6月10日，価格2,600円＋税
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）＊教科書等の持ち込み不可
授業の留意点・授業外の学習活動など	高次脳機能障害を理解することは言語聴覚士にとって重要な要素の一つです。復習をおろそかにせず、わからないことはできるだけその日のうちに解決しましょう。講義中の質問も歓迎します。
教員紹介	言語聴覚士として高次脳機能障害領域における実務経験を基盤に、神経心理学の視点から高次脳機能障害を捉えています。とくに、「脳の構造」と「こころ」の関係、大脳における高次脳機能の局在とネットワーク、症状の発現メカニズムを踏まえ、対象者の病態を理解する視点を大切にしています。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	高次脳機能障害学Ⅱ	山﨑　暁	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・高次脳機能障害の評価における目的と位置づけを理解する。 ・症状の観察から仮説を立て、評価によって仮説を検証・修正するという評価の基本的な流れについて学ぶ。 ・多様な高次脳機能障害の病態をとらえ、有益なリハビリテーションにつなげるために、各種検査の実施方法および評価結果の解釈方法を理解する。		
授業の到達目標 （行動目標）	・各種検査を適切に実施し、検査結果を整理・要約することができる。 ・各種の高次脳機能障害の検査結果を用い、症状および重症度を鑑別できる。 ・複数の検査結果を統合的に解釈し、対象者の病態を考察できる。		
授業計画	高次脳機能障害の評価における基本的な考え方を踏まえ、各種検査の目的、実施方法および結果の解釈について学ぶ。検査の実施および結果の解釈ができるようになるためには、復習や自己練習が不可欠であることを理解する。また、検査結果を基に病態を考察する方法を学び、症例検討を通して評価結果の統合的な解釈について理解を深める。 第1回：高次脳機能障害領域の評価の捉え方 第2・3回：BIT行動性無視検査、BITの結果解釈とまとめ 第4・5回：標準高次動作性検査、標準高次視知覚検査　解釈とまとめ 第6・7回：リバーミード行動記憶検査、ウエクスラー記憶検査 第8・9回：CAT・CAS（標準注意検査法・標準意欲評価法） 第10・11回：遂行機能障害の行動検査、関連する検査 第12・13・14回：症例提示　検査結果の解釈とICFに基づくまとめ 第15回：臨床認知症評価法：CDR（Clinical Dementia Rating） 定期試験：筆記		
教科書	都築澄夫監修・大塚裕一著：明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断－成人編 改訂第2版，医学と看護社，2016年，3900円＋税		
参考書	適宜：資料配布する。		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	高次脳機能障害を理解することは言語聴覚士にとって重要な要素の一つです。復習をおろそかにせず、わからないことはできるだけその日のうちに解決しましょう。講義中の質問も歓迎します。		
教員紹介	言語聴覚士として高次脳機能障害領域における実務経験を基盤に、神経心理学の視点から高次脳機能障害を捉えています。とくに、「脳の構造」と「こころ」の関係や、大脳における高次脳機能の局在とネットワーク、症状の発現メカニズムを踏まえ、対象者の病態を理解する視点を大切にしています。 評価においては仮説を検証するために検査を用いる視点を重視しています。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	言語発達障害学Ⅰ	鈴木圭子/水戸陽子/重森知奈/加藤愛香	3単位・45時間

授業の概要 (授業の目的)	言語発達障害の基本的概念について基礎知識を修得することを目的とする。 言語発達障害の種類と定義、知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如／多動性障害、後天性言語発達障害、社会的コミュニケーション障害等の症状や背景要因、発症メカニズム、評価、指導・支援や環境調整を説明できるようにする。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語発達障害の基本的概念について基礎知識を理解する。 言語発達障害の種類と定義、知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如／多動性障害、後天性言語発達障害、社会的コミュニケーション障害等の症状や背景要因、発症メカニズム、評価、指導・支援や環境調整を説明できる。
授業計画	概論（鈴木圭子） 第1回：発達障害についての基礎知識 第2回：STが関わる発達障害 第3回：言語発達障害の臨床 知的障害（水戸陽子） 第4回：知的発達症総論 第5回:知的発達症における言語・コミュニケーションの特徴 第6~7回：知的発達症児の評価 第8~9回：知的発達症児の指導・支援 第10~11回：事例で学ぶ支援 自閉症スペクトラム障害（重森知奈） 第12回：ASDの概念と定義 第13回：ASDの歴史的変遷 第14~15：ASDの行動的特徴と診断 第16~17回：ASDの評価・検査 第18~19回：ASD児への指導・訓練 限局性学習障害（加藤愛香） 第20回：限局性学習障害の定義・診断基準 第21回：原因・発生機序の仮説、臨床症状 第22回：検査・評価 第23回：治療的介入
教科書	下嶋哲也・岩﨑淳也・重森知奈（編）：標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第4版．医学書院　　配布資料
参考書	石坂郁代・水戸陽子（編）：最新言語聴覚学講座 言語発達障害学．医歯薬出版． ローナ・ウィング：自閉症スペクトル 親と専門家のガイドブック．東京書籍． 大石敬子・田中裕美子（編）： 言語聴覚士のための事例で学ぶことばの発達障害．医歯薬出版
成績評価の方法・基準	筆記試験(100%)：概論(10%)、知的障害(35%)、自閉症スペクトラム障害(35%)、限局性学習障害(20%)
授業の留意点・授業外の学習活動	講義は、講義形式のほか集団討論を含む。個人のパソコンの使用可。 タブレット・電子機器系による講義・スライド資料の撮影不可。
教員紹介	水戸：言語聴覚士。病院と療育センターで経験を積み、大学病院で小児臨床。 加藤：言語聴覚士。特別支援学校などの外部専門員。こどもクリニック非常勤。 重森：帝京平成大学 言語聴覚学科で言語発達障害学や小児領域の授業を担当。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅱ	坂口しおり 谷本式慶	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	脳性麻痺と小児嚥下の基本的概念について基礎知識を修得することを目的とする。 脳性麻痺の定義と病態、障害特性の理解、言語的な支援、拡大・代替コミュニケーションの基礎知識と小児嚥下の考え方と食形態、口腔機能、指導・支援の方法について説明できるようにする。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	脳性麻痺と小児嚥下の基本的概念について基礎知識を理解する。 脳性麻痺の定義と病態、障害特性の理解、言語的な支援、拡大・代替コミュニケーションの基礎知識と小児嚥下の考え方と食形態、口腔機能、指導・支援の方法について説明できる。		
授業計画	第1回：脳性まひの定義と病態 第2回：運動障害児の言語指導 第3回：健常児の言語発達 第4回：重度運動障害児の言語臨床 第5回：運動障害児の言語臨床 第6回：小児嚥下の考え方と食形態、口腔機能、嚥下臨床 第7回：インリアル・アプローチ 第8回：AAC（拡大・代替コミュニケーション） ※講義内容や順番が変更となることがあります。		
教科書	坂口しおり：絵で見ることばと思考の発達、ジアース教育新社、 価格：1,200円＋税 坂口しおり：コミュニケーション支援の世界、ジアース教育新社、 価格：2,000円＋税		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）参考書等の持ち込み不可。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業を阻害する行為をした場合、単位は付与しない。		
教員紹介	特別支援学校に勤務する教員が授業展開し、脳性麻痺患者や小児嚥下患者の実際を伝えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅲ	馬目　雪枝	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	言語聴覚士は対象児の現在の状態を客観的、具体的に把握するために発達検査、知能検査、言語検査などを実施する。この科目では、適切に検査の選択ができるように、各種検査の特性を正しく理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語聴覚士に係る発達検査、知能検査、言語検査がわかる。 各種検査によって得られる情報がわかる。 検査結果を適切に解釈できる。 対象児について、問診により得られた情報と実施した検査の結果を合わせて、全体像を記述することができる。		
授業計画	第1回　評価（検査）の目的と方法 第2回　初回の情報収集 第3回　種々の発達検査 第4回　発達検査演習①　遠城寺式 第5回　発達検査演習②　新版K式 第6回　種々の知能検査 第7回　知能検査演習①　田中ビネー 第8回　知能検査演習②　WISC-V 第9回　種々の言語検査 第10回　言語検査演習①　＜S-S法＞ 第11回　同上 第12回　言語検査演習②　LC-R 第13回　言語検査演習③　PVT-R、SCTAW、質問応答 第14回　ケーススタディ　初回問診→初回評価 第15回　検査結果記録→結果の解釈		
教科書	医学書院「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」第3版		
参考書	適宜、紹介します。		
成績評価の方法・基準	筆記試験(80%)、提出物(20%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など			
教員紹介	日本福祉教育専門学校言語聴覚療法学科専任教員 （併設新宿ことばの相談室室長）		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語障害学Ⅰ	鈴木圭子	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	構音障害（機能性構音障害、器質性構音障害）の基本的概念について基礎知識を修得することを目的とする。構音障害（機能性構音障害、器質性構音障害）の定義と分類、症状、検査、評価、訓練プログラムの立案を説明できるようにする。	
授業の到達目標 (学生の行動目標)	構音障害（機能性構音障害、器質性構音障害）の基本的概念について基礎知識を理解する。構音障害（機能性構音障害、器質性構音障害）の定義と分類、症状、検査、評価、訓練プログラムの立案について説明できる。	
授業計画	第1回	構音障害の基礎　正常な構音・音韻発達
	第2~3回	機能性構音障害の定義と音の誤り方の分類
	第4~6回	機能性構音障害の評価
	第7~8回	器質性構音障害の定義と原因疾患・誤り方の分類、評価、目標
	第9~11回	構音障害の治療・訓練
	第12~13回	構音障害の訓練立案
	第14~15回	構音障害の訓練演習　構音障害の臨床
教科書	・熊倉・今井：『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版』医学書院 ・阿部：『構音障害の臨床 改定第2版』金原出版	
参考書	・本間『言語聴覚療法シリーズ 改訂 機能性構音障害』建帛社 ・岡崎『口蓋裂の言語臨床 第3版』医学書院 ・道『言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第2版』医歯薬出版 （講義中には使いませんが、配布資料の引用・参考文献として使用します）	
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）	
授業の留意点･授業外の学習活動など		
教員紹介	日本福祉教育専門学校専任教員	

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語障害学Ⅱ	鈴木真生	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	①ディサースリアと音声障害の基本的概念について基礎知識が理解できる。 ②ディサースリアの原因、症状、タイプが理解できる。 ③音声障害の定義、原因、症状、タイプ、音声外科の目的と種類、音声治療手技が理解できる。 症例の発話特徴からその特徴を捉え、障害仮説が立案できる。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・他のコミュニケーション障害との違いを理解し、定義が説明できる。 ・各障害の病態生理・機能障害・発話特徴・タイプ分類を理解するとともに、原因および損傷部位との関連が説明できる。 ・臨床像を捉えるうえで必要な運動系の基礎が説明できる。 ・音声障害における音声外科の目的と種類、音声治療手技が説明できる。 ・症例の発話特徴を捉え、発声発語器官の病態生理をふまえた障害仮説が考察できる。
授業計画	◆本講義は、成人領域における発声発語障害のうちディサースリアと音声障害を中心に行う。 ◆単元ごとに小テストを実施し、学習の理解を深める。 第1～2回　オリエンテーション・概説 第3回　発声発語器官の解剖生理（復習） 第4～5回　基礎理論（定義等） 第6～9回　運動系の基礎理論（中枢神経系・末梢神経系・筋系等） 第10～13回　各障害の一般的特徴（原因・タイプ・症状等） 第14～15回　音声障害：評価と音声治療手技、音声外科 試験 ※授業の進捗状況により、授業内容に変更が生じる場合があります。
教科書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第1巻 理論編、インテルナ出版、価格5,600円＋税 2）石毛美代子編著：クリア言語聴覚療法8 音声障害、建帛社、価格3,500円＋税
参考書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編、インテルナ出版、価格4,400円＋税 2）馬場元毅：絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第4版、医学書院、価格2,800円＋税 3）新美成二監訳：発話メカニズムの解剖と生理、インテルナ出版、価格2,800円＋税
成績評価の方法・基準	定期筆記試験（80%）、小テスト（20%）
授業の留意点・授業外の学習活動など	ディサースリアと音声障害の障害像を理解するためには、「発声発語器官の解剖生理」の理解が不可欠である。「音声言語聴覚医学（呼吸発声発語系）」の授業内容をしっかり復習して臨むこと。
教員紹介	25年以上、教員として学生教育に携わってきました。臨床経験・教員経験で得たことをふまえ、ディサースリアと音声障害の基本的概念や障害像の捉え方について講義します。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語障害学Ⅲ	鈴木真生	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	・ディサースリアの評価について基礎知識が理解できる。 ・ディサースリアの検査・評価の流れが理解できる。 ・ディサースリアの検査の目的、実施方法および解釈の仕方について理解できる。 ・症例の発話特徴からその特徴を捉え、障害仮説が立案できる。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・ディサースリアの基本的概念をふまえ、検査・評価の考え方、流れが説明できる。 ・標準ディサースリア検査の目的と実施方法、解釈の仕方が説明できる。 ・症例の発話特徴を捉え、発声発語器官の病態生理について障害仮説が考察できる。
授業計画	◆本講義は、成人領域における発声発語障害のうちディサースリアを中心に行う。 ◆単元ごとに小テストを実施し、学習の理解を深める。 第1回　オリエンテーション 第2～4回　評価の基礎理論（検査・評価の考え方、流れ） 第5～10回　標準ディサースリア検査（概要、実施方法） 第11～12回　検査結果のまとめ、解釈の仕方 第13～14回　問題点の捉え方 第15回　訓練目標の設定 試験 ※レポート課題は「標準ディサースリア検査：発話の検査」の概要説明後に提示予定。
教科書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第1巻 理論編、インテルナ出版、価格5,600円＋税 2）西尾正輝：標準ディサースリア検査［新装版］、インテルナ出版、価格5,700円＋税
参考書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編、インテルナ出版、価格4,400円＋税 2）馬場元毅：絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第4版、医学書院、価格2,800円＋税 3）新美成二監訳：発話メカニズムの解剖と生理、インテルナ出版、価格2,800円＋税
成績評価の方法・基準	定期筆記試験（50%）、小テスト（20%）、レポート課題（30%）
授業の留意点・授業外の学習活動など	ディサースリアの検査・評価を理解するためには、「発声発語障害学Ⅱ」で履修するディサースリアの基本的概念が土台となるため、授業内容をしっかり復習して臨むこと。
教員紹介	25年以上、教員として学生教育に携わってきました。臨床経験・教員経験から得たことをふまえ、ディサースリアの検査・評価、障害像の捉え方について講義します。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	摂食嚥下障害学Ⅰ	古谷祥宏	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	摂食嚥下障害の基本的概念について基礎知識を修得することを目的とする。正常な摂食嚥下の構造と機能、摂食嚥下のメカニズム、摂食嚥下障害の原因・病態、症状、合併症を説明できるようにする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	摂食嚥下障害の基本的概念について基礎知識を理解する。正常な摂食嚥下の構造と機能、摂食嚥下のメカニズム、摂食嚥下障害の原因・病態、症状、合併症を説明できる。		
授業計画	第1回：イントロダクション　嚥下障害とは 第2～5回：正常な摂食嚥下の構造と機能 第6～7回：摂食嚥下に関する感覚・運動の神経について 第8～10回：摂食嚥下のメカニズム 第11~13回：摂食嚥下障害の原因（静的・動的・その他） 第14~15回：摂食嚥下障害で起こる問題 ＊他の講義との関連で、講義内容を変更する場合があります。		
教科書	藤田郁代監修：『標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第3版』医学書院、価格：5,200円＋税		
参考書	講義内で随時紹介		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	「口から食べることの重要性」を理解し、患者様の口の健康や食のQOL向上に力を添えられるようしっかり勉強しましょう。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の発声発語・嚥下障害領域での実務経験をもつ教員が、学生に対し摂食・嚥下障害の有無や程度、要因等を評価するために、正常な嚥下に携わる身体の動き学ぶことで、嚥下障害にみられる異常な状態を検出する方法を習得させる科目です。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	摂食嚥下障害学Ⅱ	古谷祥宏	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	摂食嚥下障害の評価について基礎知識を修得することを目的とする。摂食嚥下器官の運動検査・感覚検査、スクリーニング検査および精査の目的と実施方法および解釈方法を説明できるようにする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	摂食嚥下障害の評価について基礎知識を理解する。摂食嚥下器官の運動検査・感覚検査、スクリーニング検査および精査の目的と実施方法および解釈方法を説明できる。		
授業計画	第1~2回：摂食嚥下器官の運動と感覚検査 第3~5回：摂食嚥下に関するスクリーニング検査 第6~10回：検査からの統合解釈 第11~14回：摂食嚥下障害の精密検査 第15回：摂食嚥下障害の重症度分類 ＊他の講義との関連で、講義内容を変更する場合があります。		
教科書	藤田郁代監修：『標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第3版』医学書院、価格：5,200円＋税		
参考書	講義内で随時紹介		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	「口から食べることの重要性」を理解し、患者様の口の健康や食のQOL向上に力を添えられるようしっかり勉強しましょう。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の発声発語・嚥下障害領域での実務経験をもつ教員が、学生に対し摂食・嚥下障害の有無や程度、要因等を評価するために、正常な嚥下に携わる身体の動き学ぶことで、嚥下障害にみられる異常な状態を検出する方法を習得させる科目です。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅰ	岡野　由実	1単位・15時間

授業の概要 (授業の目的)	聴覚障害の基本的概念について基礎知識を修得することを目的とする。聴覚障害の概要として、聴覚器官の構造と機能、難聴の程度と種類、聞こえの特徴、各種聴覚検査、オージオグラム、補聴器、人工内耳、成人および小児の聴覚臨床について説明できるようにする。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	聴覚障害の基本的概念について基礎知識を理解する。聴覚器官の構造と機能、難聴の程度と種類、聞こえの特徴、各種聴覚検査、オージオグラム、補聴器、人工内耳、成人および小児の聴覚臨床について説明できる。
授業計画	第1回　「聴覚障害領域における言語聴覚士」 第2回　「聴覚器官の構造と機能（概要）」 第3回　「難聴とオージオグラム」 第4回　「難聴の程度と種類、聞こえの特徴」 第5回　「各種聴覚検査（内容と目的）」 第6回　「補聴器と人工内耳」 第7回　「成人の聴覚臨床における言語聴覚士の役割」 第8回　「小児の聴覚臨床における言語聴覚士の役割」
教科書	プリント随時配布
参考書	城間将江 他（編集）:『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学（第3版）』医学書院、価格：5,200円＋税 立木孝（監修）:『聴覚検査の実際 改訂5版』南山堂、価格：3,400円＋税
成績評価の方法・基準	課題100%
授業の留意点・授業外の学習活動など	本講義では臨床ビデオを用いて実施します（本人および保護者の了解済）。講義内で知り得た症例の個人情報については、一切口外しないよう留意してください。
教員紹介	言語聴覚士として、療育センターや耳鼻咽喉科クリニックなどにおいて聴覚領域の臨床経験を持つ教員が、医学・教育・心理・補聴技術といった多領域に渡る内容を、実際の症例や臨床ビデオを交えながら臨床の視点から講義します。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅱ	坂本　圭	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・聴覚機能を適切に評価するための諸検査・方法について理解する。 ・成人聴覚障害者が抱える困難やその背景を理解したうえで、適切な評価・訓練方法の立案を可能にする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・各種聴覚機能検査を理解し施行することができる。 ・聴覚検査について理解し、結果から聴覚機能評価ができる。 ・成人聴覚障害者が抱える困難を理解し、評価、訓練方法を立案できる。		
授業計画	第1回　聴覚領域に関する解剖・生理学、聴覚心理学に関する基礎 第2回　聴覚障害の種類、聴覚検査種類 第3-4回　標準純音聴力検査（理論・演習） 第5-6回　語音聴力検査・その他の聴力検査（理論） 第7-8回　語音聴力検査・その他の聴力検査（演習） 第9-10回　実技試験 第11回　聴覚障害の影響とライフステージ・心理的側面 第12回　平衡機能検査 第13回　聴覚障害評価のまとめ 第14回　リハビリテーションⅠ 第15回　リハビリテーションⅡ 定期試験：筆記および実技		
教科書	プリント随時配布		
参考書	・城間将江ら（編）:「聴覚障害学　第3版」医学書院 ・原 晃（監）・日本聴覚医学会（編）:『聴覚検査の実際 改訂4版』南山堂		
成績評価の方法・基準	筆記試験80%（持込み不可）、実技試験20%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	聴覚領域における検査・訓練を理解するためには、解剖学、生理学、音響学聴覚心理学に関する知識が必要です。他の講義内容をしっかり復習してください。		
教員紹介	大学病院の耳鼻咽喉科に言語聴覚士として、勤務している教員が、成人の聴覚障害を評価・訓練立案ができるようになるために講義・演習を行います。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅲ	氏田直子 森澤亮介	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	小児聴覚障害の特徴、乳幼児聴力検査、言語・コミュニケーション評価、指導・支援について説明できるようにする。視覚聴覚二重障害における生活や評価、コミュニケーション支援について説明できるようにする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	小児聴覚障害の特徴、乳幼児聴力検査、言語・コミュニケーション評価、指導・支援について説明できる。視覚聴覚二重障害における生活や評価、コミュニケーション支援について説明できる。		
授業計画	第1回　聴覚の発達、小児聴覚障害の特徴 第2回　小児聴覚障害の原因と医学的検査 第3~5回　小児の聴覚検査（演習を含む） 第6回　小児の補聴器と人工内耳 第7回　言語・コミュニケーション評価 第8回　前言語期段階の指導 第9回　言語習得段階の指導 第10回　就学後の指導 第11回　保護者支援 第12回　視覚聴覚二重障害　病理・生理 第13回　視覚聴覚二重障害　コミュニケーション・言語指導の歴史 第14回　視覚聴覚二重障害者の生活・視覚聴覚二重障害疑似体験 第15回　視覚聴覚二重障害　事例検討		
教科書	立木孝：「聴覚検査の実際　改訂5版」南山堂　3,400円＋税 城間将江他：標準言語聴覚障害学「聴覚障害学第3版」医学書院　5,200円＋税		
参考書	医療情報科学研究所（編）：『病気が見えるvol.13 耳鼻咽喉科』メディックメディア、3,850円		
成績評価の方法・基準	小児聴覚障害(70%)：筆記試験(63%)＋講義終了後の聴講票(7%) 視覚聴覚二重障害(30%)：筆記試験(24%)＋講義内の小レポート(6%)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	教科書を丁寧に読みましょう。知識や技術を学ぶだけでなく、実際に「できる」ようにするには、時間と練習が必要です。最初からできなくても焦らずに、学習と練習を積み重ねてください。		
教員紹介	氏田：病院で乳幼児から高齢者の聴覚リハを担当。大学のST専任教員、難聴児専門の児童発達支援事業所デイサービスでの支援。 森澤：公立の特別支援学校で視覚聴覚二重障害のある児童・生徒を担当。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義・演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学演習Ⅰ	関口　貴之 学科教員	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	補聴器・人工内耳の基本的概念（構造・機能、特徴、適応等）について基礎知識を修得するとともに、演習を通して理解を深めることを目的とする。 補聴器の選択やフィッティングに必要な純音聴力検査、語音聴力検査の演習、補聴器特性装置の演習を行い、実施できるようにする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	補聴器・人工内耳の基本的概念（構造・機能、特徴、適応等）について基礎知識を理解するとともに、演習を通して理解を深める。補聴器の選択やフィッティングに必要な純音聴力検査、語音聴力検査の演習、補聴器特性装置を実施できる。		
授業計画	第1回　　補聴器の構造・機能 第2回　　PCによるデジタル補聴器のフィッティング、試聴演習② 第3回　　補聴器の特性測定演習、補聴器適合理論と利得測定法（実耳測定含む） 第4回　　対象に応じた補聴器の適合理論とその手法、装用効果の測定 第5回　　補聴器の福祉申請、事例検討（小児・成人） 第6回～第7回　　人工内耳とは…構造・適応基準・リスク・禁忌など 第8回　　人工内耳装用のリハビリテーション・評価法など 第9~15回　語音聴力検査・その他の聴力検査（演習）		
教科書	プリント等配布		
参考書	・立木孝（編）・日本聴覚医学会（監）： 『聴覚検査の実際　改訂3版』(南山堂)、3,570円+税 ・中村公枝・城間将江・鈴木恵子（編）・藤田郁代（監）： 『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学』　(医学書院)、5,200円+税 ・小寺一興（著）： 『補聴器フィッティングの考え方　改訂3版』(診断と治療社)、3,200円+税		
成績評価の方法・基準	補聴器・人工内耳：筆記試験(50%) 聴力検査演習：課題(50%)		
授業の留意点･授業外の学習活動など	補聴器を選択、フィッティングしていく過程には、純音・語音聴力検査など聴覚検査の解釈ができることが重要です。また、難聴児者におけるコミュニケーション障害についての理解も必要です。聴覚障害学（Ⅰ）概論、(Ⅱ)成人聴覚障害、(Ⅲ)小児聴覚障害等、他の講義の復習をしておいてください。		
教員紹介	関口：パナソニック補聴器（株）首都圏営業ブロック所属　　言語聴覚士		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	地域言語聴覚療法学	木村欣司	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	障害児・者、高齢者の地域における生活を支援するための諸制度や自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム及び多職種連携など言語聴覚士に必要な知識・技能並びに支援のあり方について修得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	介護関連・福祉関連・医療関連・発達教育関連の制度とシステム、支援方法、地域連携および多職種連携、地域言語聴覚療法における言語聴覚士の役割について説明できるようにする。		
授業計画	第1回：地域言語聴覚療法とは何か 第2回：地域包括ケアシステムとSTの役割 第3回：地域で関わる対象者の理解 第4回：生活期における評価の考え方 第5回：在宅・訪問リハビリテーション 第6回：通所・施設におけるSTの役割 第7回：地域における摂食嚥下支援 第8回：地域におけるコミュニケーション支援 第9回：家族支援・介護者支援 第10回：多職種連携と地域連携 第11回：地域言語聴覚療法の実際① 第12回：地域言語聴覚療法の実際② 第13回：地域言語聴覚療法の実際③ 第14回：災害時における地域言語聴覚療法 第15回：災害時における地域言語聴覚療法 ※　学習効果を図るため、中途の講義内容の変更、順序入れ替えがある。		
教科書	半田理恵子ら.2026.『地域言語聴覚療法学　第2版』.医学書院,(256)		
参考書	適宜、紹介する。		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	本講義は各論の知識を基礎として多角的に展開するため、日ごろからの復習が講義内容の理解を深めることにつながります。		
教員紹介	多摩リハビリテーション学院専門学校　言語聴覚学科　基幹教員		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	見学実習	鈴木真生・木村欣司 西片裕・山﨑暁・ 古谷祥宏・実習指導者	1単位・40時間

授業の概要 (授業の目的)	言語聴覚臨床に接し、臨床の実際を学ぶことを目的とする。 言語聴覚士の役割と業務（職業倫理を含む）、見学する病院・施設の機能と地域における役割について理解するとともに、臨床観察の視点で言語聴覚障害がある人の抱える問題やその背景を捉え、客観的に記録できるようにする。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・臨床観察の視点で言語聴覚障害がある人の抱える問題や症状等を捉えることができる。 ・臨床観察の視点で言語聴覚障害がある人の抱える問題や症状等の背景を捉えることができる。 ・臨床観察の視点で言語聴覚障害がある人の抱える問題や症状等を客観的に記録することができる。 ・言語聴覚士の役割と業務が説明できる。 ・見学する施設の特徴と地域における役割が説明できる。 ・職業倫理（守秘義務等）が説明できる。
授業計画	【実習日程：予定】　※2026年2月時点（実習日程は変更する場合がある） 2026年7月27日（月）～2026年8月22日（土） ※学生は3～4グループに分かれ、上記期間のいずれかで実習を行う。 【実習時間】 上記期間のうち40時間（5日間）の実習を行う。 【その他】 ・見学実習は実習施設で行う。 ・実習前に実施する「実習ガイダンス」に必ず出席する。 ・「実習ガイダンス」にて、実習施設の紹介や実習の概要を説明するとともに、実習配置を発表する。
教科書	必要に応じて種々のものを活用する。
参考書	必要に応じて種々のものを活用する。
成績評価の 方法・基準	実習報告及び平素の実習成績に基づき、実習指導者と教員が総括的に評価する。成績評価の基準は、「実習評価60%」、「実習記録20%」、「レポート課題20%」とする。評価項目および成績表は実習ガイダンスで提示する。
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習は、施設側のご厚意と実習指導者の後輩育成に対する熱意、対象者のご協力のもとに成り立つものである。学生は、実習指導者のもとで意欲的に取り組むとともに、真摯さ、感謝を忘れてはならない。また、実習に向けて事前準備をしっかり行うこと。
教員紹介	病院や介護老人保健施設等の実習施設において、各施設で勤務される言語聴覚士が実習指導者となり言語聴覚臨床の実際について指導します。 また、言語聴覚士の経験をもつ学科教員が見学実習前・後の指導を行います。

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	評価実習	鈴木真生・木村欣司 西片裕・山﨑暁・ 古谷祥宏・実習指導者	3単位・120時間
授業の概要 (授業の目的)	臨床の基本的態度と言語聴覚障害がある人の評価・診断技能を学ぶことを目的とする。 実習指導者の下、臨床思考過程をふまえながら、対象者に対する言語聴覚療法評価、生活機能と障害の整理、評価の報告などの一連の言語聴覚療法を実践できるようにするとともに、言語聴覚障害がある人とのコミュニケーション活動や他職種との連携や言語聴覚士の臨床以外の業務について学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・臨床の基本的態度と評価・診断技能を身につけることができる。 ・言語聴覚障害がある人と適切なコミュニケーションをとることができる。 ・実習指導者の指導の下、対象者の神経心理学特徴等が明らかとなる評価法を選択し、実施することができる。 ・実施した評価結果を分析することができる。 ・多職種との連携や言語聴覚士の臨床以外の業務が説明できる。		
授業計画	【実習日程：予定】　※2026年2月時点（実習日程は変更する場合がある） Ⅰ期：2027年2月1日（月）～2027年2月20日（土） Ⅱ期：2027年2月22日（月）～2027年3月13日（土） ※学生は2グループに分け、Ⅰ期・Ⅱ期のいずれかで実習を行う。 【実習時間】 上記期間のうち120時間（15日間）の実習を行う。 【その他】 ・評価実習は実習施設で行う。 ・実習前に実施する「実習ガイダンス」に必ず出席する。 ・「実習ガイダンス」にて、実習施設の紹介や実習の概要を説明するとともに、実習配置を発表する。		
教科書	必要に応じて種々のものを活用する。		
参考書	必要に応じて種々のものを活用する。		
成績評価の 方法・基準	実習報告及び平素の実習成績に基づき、実習指導者と教員が総括的に評価する。成績評価の基準は、「実習評価80%」、「実習報告20%」とする。評価項目および成績表は実習ガイダンスで提示する。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習は、施設側のご厚意と実習指導者の後輩育成に対する熱意、対象者のご協力のもとに成り立つものである。学生は、実習指導者のもとで意欲的に取り組むとともに、真摯さ、感謝を忘れてはならない。また、実習に向けて事前準備をしっかり行うこと。		
教員紹介	病院や介護老人保健施設等の実習施設において、各施設で勤務される言語聴覚士が実習指導者となり言語聴覚臨床の実際について指導します。 また、言語聴覚士の経験をもつ学科教員が評価実習前・後の指導を行います。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎専門分野	専門基礎分野特論Ⅰ （基礎医学）	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な医学概論、生理学、病理学、解剖学といった基礎医学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、基礎医学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と基礎医学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、基礎医学領域を理解し、言語化することができる。 ・基礎医学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・基礎医学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、基礎医学領域の知識が欠かせない。なぜなら、基礎医学領域は、臨床医学領域や臨床専門領域との関連が深いためである。よって、言語聴覚士として必要な基礎医学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：基礎医学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な基礎医学の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅱ (臨床医学)	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な耳鼻咽喉科学、内科学、小児科学、形成外科学、臨床神経学、精神医学、リハビリテーション医学といった臨床医学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、臨床医学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と臨床医学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、臨床医学領域を理解し、言語化することができる。 ・臨床医学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・臨床医学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、臨床医学領域の知識が欠かせない。なぜなら、臨床医学領域で扱う疾患は、臨床専門領域との関連が深いためである。よって、言語聴覚士として必要な臨床医学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：臨床医学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な臨床医学の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅲ (音声言語聴覚医学)	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な呼吸発語系、聴覚系、神経系といった音声言語聴覚医学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、音声言語聴覚医学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と音声言語聴覚医学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、音声言語聴覚医学領域を理解し、言語化することができる。 ・音声言語聴覚医学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・音声言語聴覚医学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、音声言語聴覚医学領域の知識が欠かせない。なぜなら、音声言語聴覚医学領域の解剖・生理・病理の知識は、臨床専門領域との関連が深いためである。よって、言語聴覚士として必要な音声言語聴覚医学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：音声言語聴覚医学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な音声言語聴覚医学の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	心理測定法	福島和郎	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	心理検査や心理学研究の背景にある心理測定の科学的なアプローチを学修し、知能やパーソナリティの測定や尺度構成の考え方を理解する。代表的な心理検査と種々の測定方法を総合的に理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・心理検査の仕組みや構成を理解し、説明できる。 ・代表的な検査を種類ごとに分類し、それぞれの特徴を説明できる。 ・測定方法の違いを理解し、検査目的に応じた適切な測定ができる。		
授業計画	第1回：心理学における心理測定の歴史 第2回：心理測定の基礎、心理測定の意義 第3回：心理学研究と心理測定、測定に伴う誤差 第4回：評定法、尺度構成法（直接法、間接法） 第5回：信頼性と妥当性、検査理論 第6回：知能の構造、知能の評価、認知機能の評価、二大知能検査 第7回：ウェクスラー式知能検査の下位尺度および尺度得点 第8回：確認テスト、前半のまとめ 第9回：パーソナリティの評価、特性論と類型論 第10回：質問紙法と投影法、質問紙法パーソナリティ検査 第11回：投影法パーソナリティ検査、作業検査 第12回：閾の概念、閾値の測定、j.n.d.とPSE 第13回：精神物理学的測定法（調整法、極限法、恒常法、適応法、等） 第14回：測定理論と測定の法則、測定方法のまとめ 第15回：講義内容の総括 最終試験		
教科書	加藤司（著）:『〔改訂版〕心理学の研究法―実験法・測定法・統計法―』北樹出版、2,090円		
参考書	市川伸一編（著）:『心理測定法への招待』サイエンス社、2,970円		
成績評価の方法・基準	最終筆記試験（90%）、確認テストまたはレポート（10%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義形式で毎回プリントを配布し、これにポイントを記入してもらう授業を行います。毎回扱う範囲が広いので、復習を確実に行ってください。		
教員紹介	複数の教育機関で講師を務め、病院併設の研究機関で精神障碍者の治験と検査開発にあたり、精神障碍者グループホーム等で臨床実践を行ってきました。心理測定の理論的背景をわかりやすく講義します。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅳ （心理学）	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な認知・学習心理学、生涯発達心理学、臨床心理学、心理測定法、心理統計法といった心理学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、心理学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と心理学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、心理学領域を理解し、言語化することができる。 ・心理学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・心理学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、心理学領域の知識が欠かせない。なぜなら、心理学領域の知識は、言語聴覚士が対象者と向き合ううえで必要であり、心理統計法もまた科学的なリハビリテーションを行ううえで必要不可欠なためである。よって、言語聴覚士として必要な心理学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：心理学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験と研究実績のある教員が、言語聴覚士として必要な心理学の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅴ （言語学）	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な言語学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、言語学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と言語学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、言語学を理解し、言語化することができる。 ・言語学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・言語学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 コミュニケーション障害を対象とする言語聴覚士にとって言語学の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な言語学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：言語学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な言語学の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅵ （音声学）	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な音声学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、音声学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と音声学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、音声学を理解し、音声化することができる。 ・音声学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・音声学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 コミュニケーション障害を対象とする言語聴覚士にとって音声学の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な音声学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：音声学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な音声学の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅶ （音響学）	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な音響学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、音響学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と音響学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、音響学領域を理解し、アウトプットすることができる。 ・音響学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・音響学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 コミュニケーション障害を対象とする言語聴覚士にとって音響学領域の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な音響学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：音響学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な音響学の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	社会保障制度・関係法規		2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	社会保障の基本的な考え方を身につけると共に制度の中身と直近の法改正を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・社会福祉、社会保障の成り立ちや意味を学び、現代社会を分析し、必要性を考察する。 ・制度の概要を把握し、直近の制度変更を学び、身につける。		
授業計画	第1回　社会保障と社会福祉　a考え方（理念・地域福祉・利用者の利益の保護・その他）、 第2回　社会保障と社会福祉　b動向 第3回　社会保障の体系と範囲a社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生および医療（一般保険、学校保健、母子保健、精神保健、老人保健を含む） 第4回　社会保障を構成する各制度　a年金 第5回　社会保障を構成する各制度　b医療保障（医療扶助、公費負担制度を含む） 第6回　社会保障を構成する各制度　c介護保険 第7回　社会保障を構成する各制度　d労働者災害補償制度、e雇用保険、f社会手当（家族手当を含む） 第8回　社会保障を構成する各制度　g公的扶助、h社会福祉、iその他関連制度 第9回　社会福祉の法律と施策および運用　a社会福祉法、b児童福祉法、c老人福祉法 第10回　社会福祉の法律と施策および運用　d障害者基本法、e身体障害者福祉法、f知的障害者福祉法、g精神保健および精神障害者福祉に関する法律、h生活保護法およびその他関連法 第11回　障害者に関する施策と実施体制　a身体障害者手帳等手帳制度、b障害認定、c福祉用具（補装具、日常生活用具、その他）、d障害者計画 第12回　介護保障　a介護保険の給付、b制度の運用、cその他の介護サービス 第13回　社会福祉援助技術　a直接援助技術　1）個別援助技術（ケースワーク）　2）集団援助技術（グループワーク） 第14回　b間接援助技術　1）地域援助技術、2）社会福祉調査法、3）社会福祉運営・管理、4）社会活動法、5）その他の間接援助技術 第15回　cその他の関連専門援助技術　1）ケアマネジメント、2）スーパービジョン、3）カウンセリング、4）ネットワーク、5）その他 定期試験		
教科書	○社会保障の手引2025版　施策の概要と基礎資料；中央法規出版　価格：3,400円+税 ○プリント随時配布		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	プリント、教科書を使った講義形式、質疑応答も含める。		
教員紹介			

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅷ （社会福祉・教育）	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な社会保障制度・関係法規、リハビリテーション概論といった社会福祉・教育領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、社会福祉・教育領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と社会福祉・教育領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、社会福祉・教育領域を理解し、言語化することができる。 ・社会福祉・教育領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・社会福祉・教育領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士として働くうえで、社会福祉・教育領域の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な社会福祉・教育領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：社会福祉・教育に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な社会福祉・教育領域の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅰ （言語聴覚障害学総論）	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害診断学といった言語聴覚障害学総論領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、言語聴覚障害学総論領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と言語聴覚障害学総論領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、言語聴覚障害学総論領域を理解し、言語化することができる。 ・言語聴覚障害学総論領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・言語聴覚障害学総論領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な言語聴覚障害学総論領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：言語聴覚障害学総論学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な言語聴覚障害学総論領域の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学Ⅳ（訓練）	西片　裕 山﨑　暁	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	失語症やその他の高次脳機能障害、認知症に対して適切なアプローチ・リハビリテーションを実施できるようになるために、各種訓練方法を理解し、実施する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・失語症に対する各種訓練方法の目的と方法を理解し、実施できる。 ・高次脳機能障害の中で比較的頻度の高い、半側空間無視、注意障害、記憶障害、遂行機能障害、観念失行、観念運動失行、視覚失認に対するアプローチを説明できる。 ・対象者の病態に適した訓練目標および訓練方法を、ICFの機能・活動・参加・環境因子・個人因子などを考慮して立案できる。		
授業計画	・失語症の各モダリティー、各レベルに対応した訓練方法を説明します。訓練で留意すべき点についても説明します。訓練の目的と実施方法を十分理解してください。症例に最も適切な訓練方法と難易度を選択し、実施するために必要な知識です。 ・高次脳機能障害は複数同時に生じることが多く、それらは互いに影響します。このため訓練目標を定めるには、障害の程度や種類、生活背景などを深く理解する必要があります。訓練目標が同じでも対象者の障害特性や個性によって訓練方法は異なります。本講義では、純粋例に対する代表的な訓練法を提示しますので、基本的な訓練目標の設定や訓練方法をしっかりと学んでください。 第1回：言語治療の留意点、失語症の予後、経過に合わせたアプローチ 第2回：刺激法、ディブロッキング法、認知心理学的アプローチ 第3～7回：モダリティーとレベルに応じた言語訓練 第8～9回：活動レベルの言語訓練、失語症者に対するAACアプローチ 第10回：訓練を行う上での留意点、半側空間無視に対するアプローチ 第11～12回：注意障害・遂行機能障害に対するアプローチ 第13回：記憶障害に対するアプローチ 第14回：観念運動失行・観念失行に対するアプローチ 第15回：視覚失認に対するアプローチ		
教科書	プリント随時配布		
参考書	中村光：失語症の言語訓練－言語情報処理モデルとエビデンスに基づく音声単語のセラピー－、協同医書出版社（4300円＋税） 森田秋子ほか：動画と音声で学ぶ失語症の症状とアプローチ、三輪書店（4800円＋税）		
成績評価の方法・基準	レポート（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	訓練の目的をしっかりと把握して、訓練方法も習得しましょう。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、失語症やその他の高次脳機能障害、認知症に対する各種訓練方法を講義します。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学 V（ケーススタディー）	西片　裕 山﨑　暁	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・失語症治療を実施できるようになるために、訓練プログラムを立案し、模擬的な訓練を実施する。 ・認知症の多様な症状に対しアプローチできるようになるために、認知症に行われているアプローチを理解し、具体的な方法を身につける。 ・アプローチの意義や目的を認知症者や家族にわかりやすく説明できるようになるために、プレゼンテーション技術を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・失語症例に対する適切な訓練を立案し、実施できる。 ・失語症例の反応に適切に対応し、柔軟に内容を修正しながら訓練できる。 ・多様な高次脳機能障害や周辺症状のある認知症に対するアプローチを理解し、病態に合わせた訓練目標を設定し具体的な訓練方法を立案できる。 ・認知症訓練の意義と目的、方法をわかりやすくプレゼンテーションできる。 ・立案した訓練プログラムを実施できる。		
授業計画	失語症模擬訓練の実施 ・自分で設定した症例に対して、適切な訓練を立案します。立案した訓練をスムーズに実践できるまで練習します。 ・他の学生に症例を演じてもらい、訓練を実演します。その後、実演した訓練についての感想やコメント、質問などの討論を行い、学生全体で理解を深めます。 認知症に対する訓練目標および訓練法のプレゼンテーション ・認知症に対し、言語聴覚士が行う訓練や援助方法理解し、わかりやすくプレゼンテーションする技術をグループ内で検討しながら学びます。 ・認知症の重症度および周辺症状の設定は各グループに一任します。 ・自分たちが設定した訓練目標と訓練内容をグループごとにプレゼンテーションします。その後、質疑応答や討論を行い、学生全体で理解を深めます。 第1回：失語症例に対する模擬訓練、症例の設定 第2回：認知症例に対する模擬訓練のグループ分け、対象の設定 第3～7回：訓練プログラムの立案と練習（失語例、認知症例） 第8～11回：グループごとの認知症に対する訓練のプレゼンテーション 第12～15回：個人による失語症訓練の実演		
教科書	なし		
参考書	大塚裕一・宮本恵美：高次脳機能障害のグループゲーム集，金原出版，2003年，3600円+税		
成績評価の方法・基準	・失語症例（50%）立案した訓練内容と、訓練実施の様子を評価します。 ・認知症例（50%）設定した症例に見合った訓練目標・訓練内容であるかどうか、プレゼンテーション内容、質疑応答や討論時の対応を評価します。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	訓練プログラムの立案や作製、プレゼンテーションの練習は、時間を要することが想定されます。時間を有効に使い効率的に学習しましょう。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、丁寧にアドバイスをします。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅱ (失語症学)	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な失語症学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、失語症学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と失語症学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、失語症学を理解し、言語化することができる。 ・失語症学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・失語症学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な失語症学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：失語症学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な失語症学の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅲ （高次脳機能障害学）	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な高次脳機能障害学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、高次脳機能障害学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と高次脳機能障害学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、高次脳機能障害学を理解し、言語化することができる。 ・高次脳機能障害学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・高次脳機能障害学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な高次脳機能障害学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：高次脳機能障害学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な高次脳機能障害学の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅶ （ケーススタディ）	馬目雪枝	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	言語聴覚臨床の一連の流れを、小児の言語発達の視点から遂行すること。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	対象者の状態や特性に合った言語訓練を実施するために、適切な問診、評価、言語障害学的診断、目標設定、訓練立案ができる。 対象者に関する情報を報告書としてまとめることができる。		
授業計画	第1回　復習：初回評価の検査バッテリー 第2回　発達段階に応じた指導 第3回　国リハ式＜S-S法＞の訓練法 第4回　親による子どもの障害受容 第5回　ケーススタディ①情報収集・評価 第6回　評価のまとめ・目標設定 第7回　訓練立案 第8回　発表 第9回　ケーススタディ②情報収集・評価 第10回　評価のまとめ・目標設定 第11回　訓練立案 第12回　発表 第13回　報告書のまとめ方 第14回　ケーススタディ①を報告書にまとめる 第15回　ケーススタディ②を報告書にまとめる		
教科書	医学書院「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」第3版		
参考書	建帛社「言語聴覚士のための臨床実習テキスト　小児編」		
成績評価の方法・基準	課題：80%。提出物：20%		
授業の留意点・授業外の学習活動など			
教員紹介	日本福祉教育専門学校言語聴覚療法学科　専任教員		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅳ （言語発達障害学）	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な言語発達障害学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、言語発達障害学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と言語発達障害学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、言語発達障害学を理解し、言語化することができる。 ・言語発達障害学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・言語発達障害学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な言語発達障害学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：言語発達障害学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な言語発達障害学の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅳ （成人系発話障害）	鈴木真生・山﨑暁	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・ディサースリアにおける評価診断、訓練仮説、訓練プログラム立案の捉え方が理解できる。 ・ディサースリアにおける訓練の概要・訓練アプローチを理解し、演習を通して訓練手技が理解できる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・臨床における評価診断の目的を理解し、訓練仮説の立案と訓練効果の検証について、その重要性が説明できる。 ・訓練を行ううえで必要な考え方、流れが説明できる。 ・タイプ別および器官別訓練アプローチについて、目的・訓練手技が説明できる。		
授業計画	◆単元ごとに小テストを実施し、学習の理解を深める。 ◆障害像を捉え、評価診断、訓練仮説、目標、訓練プログラムを考察するためにレポート課題を行う。 第1回　オリエンテーション 評価診断、訓練仮説とその検証について 第2～3回　訓練概論（対象者との関わり方、訓練の流れ・モデル等） 第4～5回　訓練アプローチ（原因疾患、分類、タイプ別） 第6回　口腔構音器官の器質障害をきたす疾患、器質障害の評価と補綴物の種類・訓練 第7～8回　器官別：訓練アプローチ（呼吸機能） 第9～10回　器官別：訓練アプローチ（発声機能・鼻咽腔閉鎖機能） 第11～13回　器官別：訓練アプローチ（口腔構音機能） 第14～15回　器官別：訓練アプローチ（プロソディー機能、AAC等） ※レポート課題は第7回終了後に提示予定。		
教科書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編、インテルナ出版、価格4,000円＋税 2）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第3巻 臨床実用編、インテルナ出版、価格4,400円＋税		
参考書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第1巻 理論編、インテルナ出版、価格5,600円＋税 2）西尾正輝：スピーチリハビリテーション第1巻～第5巻、インテルナ出版（各巻本体価格が異なります。詳細は講義内で説明します。）		
成績評価の 方法・基準	レポート課題（80%）、小テスト（20%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	「発声発語・嚥下障害学Ⅲ（成人系発話障害）」の理解が不可欠なため、しっかり復習して臨むこと。		
教員紹介	25年以上、教員として学生教育に携わってきました。臨床経験で得たこと、教員経験から得たことをふまえ、ディサースリアの訓練について演習を交えて講義します。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学 Ⅵ（摂食嚥下障害）	加藤太一 木村欣司	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	嚥下の機能回復を目指す訓練法を提供できるために、摂食嚥下の病態生理の復習から各訓練法の意義、実施法を関連づけて学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・各訓練法の意義や効果を理解できる。 ・各訓練法の実施ができる。 ・障害に対し、適切な摂食嚥下療法が提供できる。		
授業計画	第1回～第2回：リスク管理 第3回～第4回：訓練の実際（間接訓練） 第5回～第6回：訓練の実際（直接訓練） 第7回～第8回：訓練の実際（外科的治療・薬物療法・補綴治療） 第9回～第15回：症例検討		
教科書	柴本勇ら 監修：『動画でわかる　摂食嚥下障害患者のリスクマネージメント』中山書店、価格：3,800円＋税		
参考書	適宜紹介		
成績評価の方法・基準	課題（50%）・筆記試験（50%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	発声発語・嚥下障害学Ⅴ（嚥下障害）での知識が前提です。 しっかりと復習し臨むように心掛けて下さい。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の発声発語・嚥下障害領域での実務経験をもつ教員が学生に対し、嚥下の機能回復を目指す訓練法を提供できるために、摂食嚥下の病態生理の復習から各訓練法の意義、実施法を関連づけて理解させる科目です。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅶ （音声障害）	西片　裕	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	音声障害を評価して適切な音声治療を実施するために、音声障害の原因疾患、検査方法、音声外科の目的と種類、音声治療手技を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・音声障害の原因疾患の特徴を説明できる。 ・医師が実施する検査方法が理解できる。 ・言語聴覚士が実施する検査方法が理解できる。 ・音声外科の目的と方法が理解できる。 ・音声治療手技を理解し、代表的な手技を使用できる。		
授業計画	授業は適時配布するプリントに沿って行います。音声治療を行う医師の指示で、言語聴覚士は音声リハビリテーションを実施します。そのため、原因疾患のみならず、医師が行う検査や治療についての知識も広く学びます。言語聴覚士が分担する検査やリハビリテーション手技を一通り学び、代表的な手技について実践できるように学びます。 第1回：声の障害とは、音声障害の分類、声の発達と障害、声の乱用・誤用 第2～3回：音声障害の原因疾患 第4回：検査方法 第5回：音声外科、声の衛生、音響分析の実技 第6～7回：音声リハビリテーションの方法 第8回：人工喉頭、食道発声、シャント発声、カニューレ		
教科書	廣瀬肇監修：STのための音声障害診療マニュアル，インテルナ出版，2009年，3500円＋税		
参考書	Alison Behrman・John Haskell編、城本修・生井友紀子訳：実践音声治療マニュアル，2012年，インテルナ出版、3800円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	配布されたプリントには余白を多くとってあり、授業中のノートとしても書き込めるようにしています。プリントの量が多いので、ファイル等に整理するようにしてください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の発声発語領域での実務経験をもつ教員が、音声障害の原因疾患や検査方法、治療手技を講義します。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学 Ⅷ（流暢性障害）	南　めぐみ	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・吃音に関する基本的な知識を得て、吃音症状を評価し、治療方針を立てる。 ・吃音当事者が抱える問題について理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・吃音についてのガイダンスができるようになる。 ・アセスメントを行い、治療計画を立てることができるようになる。		
授業計画	第1回　　吃音の基礎的知識 第2回　　吃音の症状分類 第3回　　吃音の進展過程について 第4回　　各種理論（原因論） 第5回　　アセスメントについて 第6回　　吃音検査実習 第7回　　指導･訓練について 第8回　　指導・訓練について 定期試験（振り返り）		
教科書	池田泰子・坂田善政編著　『クリア言語聴覚療法　7　吃音・流暢性障害』建帛社 本体価格：4180円（税込）		
参考書	バリー・ギター：『吃音の基礎と臨床　総合的アプローチ』学苑社		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業では，吃音に関するさまざまな書籍を紹介します。吃音に関心を持ち，積極的に本を読んでみて下さい。		
教員紹介	小児科クリニックのＳＴである教員が講義を行います。吃音に関する研究も行っておりました。気になったことは、気兼ねなく授業で質問して下さい。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅸ （ケーススタディー）	古谷祥宏・鈴木真生	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	発声発語・嚥下障害領域（ディサースリア・摂食嚥下障害）のリハビリテーションが実施できるようになるため、提示する事例について問題点の把握から訓練目標、訓練仮説、訓練プログラム立案に至る過程が理解できる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・評価結果から事例に対する問題点を挙げることができる。 ・問題点から適切な訓練目標を立てることができる。 ・問題点、訓練目標から訓練仮説を立てることができる。 ・訓練仮説をふまえ、具体的な訓練プログラムが選択できる。		
授業計画	第1回　オリエンテーション（事例検討の目的と進め方について） 第2～3回　事例検討（ディサースリア領域） 第4～5回　事例検討（ディサースリア領域） 第6～7回　事例検討（ディサースリア領域） 第8～9回　事例検討（摂食嚥下障害領域） 第10～11回　事例検討（摂食嚥下障害領域） 第12～13回　事例検討（摂食嚥下障害領域） 第14～15回　発表・総括 ※事例検討は、各領域6回を予定しています。 ※各領域において問題点の把握、訓練目標の立案、訓練仮説、訓練プログラムの立案を中心とした事例検討を行った後、各領域の内容を統合します。 ※グループ内で統合した内容をもとに発表資料し、第14～15回の授業で発表します。 ※各領域のレポート課題は授業時間内に説明します。 ※授業の順番は変更になる場合があります。		
教科書	プリント随時配布		
参考書	適宜紹介		
成績評価の 方法・基準	事例検討の発表資料作成および発表とディサースリア領域・摂食嚥下障害領域のレポート課題による総合評価とします。 ・発表資料・発表（30%） ・レポート課題：ディサースリア領域・摂食嚥下障害領域（各35%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	グループディスカッションを通して事例検討を行う。ディスカッションは時間を効率的に使い、主体的に取り組むこと。		
教員紹介	◆摂食嚥下障害領域（古谷祥宏：所沢リハビリテーション病院勤務） 学生が立案した目標、訓練プログラムまでに対して、言語聴覚士としての実務経験から、丁寧にアドバイスをします。 ◆ディサースリア領域（鈴木真生） 教員経験から得たこと、臨床経験で得たことをふまえ、ディサースリアの捉え方についてアドバイスをします。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅴ (発声発語障害学)	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な小児系発話障害、成人系発話障害、音声障害、流暢性障害といった発声発語障害学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、発声発語障害学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と発声発語障害学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、発声発語障害学領域を理解し、言語化することができる。 ・発声発語障害学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・発声発語障害学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な発声発語障害学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：発声発語障害学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な発声発語障害学領域の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅵ (摂食嚥下障害学)	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な摂食嚥下障害学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、摂食嚥下障害学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と摂食嚥下障害学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、摂食嚥下障害学を理解し、言語化することができる。 ・摂食嚥下障害学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・摂食嚥下障害学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な摂食嚥下障害学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：摂食嚥下障害学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な摂食嚥下障害学の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅳ (小児聴覚障害)	岡野　由実	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	先天性聴覚障害が生涯発達に及ぼす影響を理解し、言語聴覚士の果たす役割について考察する。 小児聴覚障害に関わる多領域に渡る情報(医学、教育、心理、補聴技術 等)について、包括的に理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	小児聴覚障害臨床における医学的基礎知識および各種聴覚検査について説明できる。 小児聴覚障害臨床における言語・コミュニケーション評価と指導について概要が理解できる。		
授業計画	第1回　「小児聴覚障害の原因と医学的検査」 第2回　「小児の聴覚検査」 第3回　「小児の補聴器と人工内耳」 第4回　「言語・コミュニケーション評価」 第5回　「前言語期段階の指導」 第6回　「言語習得段階の指導」 第7回　「就学後の指導」 第8回　「保護者支援」 第9回　定期試験（振り返り）		
教科書	プリント随時配布		
参考書	佐藤紀代子 他（編著）:『クリア言語聴覚療法10 聴覚障害』建帛社、価格4,700円＋税 城間将江 他（編集）:『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学（第3版）』医学書院、価格：5,200円＋税		
成績評価の方法・基準	毎回授業後に小テストを実施します（資料持ち込み可）。 成績は最終回に実施する筆記試験（資料持ち込み不可）にて評価します		
授業の留意点･授業外の学習活動など	本講義では臨床ビデオを用いて実施します（保護者の了解済）。講義内で知り得た症例の個人情報については、一切口外しないよう留意してください。		
教員紹介	言語聴覚士として、療育センターや耳鼻咽喉科クリニックなどにおいて聴覚領域の臨床経験を持つ教員が、医学・教育・心理・補聴技術といった多領域に渡る内容を、実際の症例や臨床ビデオを交えながら臨床の視点から講義します。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅴ （補聴器・人工内耳）	関口　貴之	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	聴覚障害児者への補聴手段の一つとして、補聴器は不可欠といえます。 本課目では、補聴器の構造から適合理論、その手法についての理解を深め、対象に応じた補聴器の適合ができるようにする。また、人工内耳の構造、手術適応、マッピング、効果、リスク、評価法等の基本的事項を理解する		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・補聴器の構造・機能についての理解を深める。 ・補聴器の特徴を理解し、対象に応じて補聴器の選択、適合ができるようにする。 ・人工内耳の構造、手術適応、マッピング、効果、リスク、評価法等の基本的事項をできる。		
授業計画	第1回　補聴器の構造・機能 第2回　PCによるデジタル補聴器のフィッティング、試聴演習② 第3回　補聴器の特性測定演習、補聴器適合理論と利得測定法（実耳測定含む） 第4回　対象に応じた補聴器の適合理論とその手法、装用効果の測定 第5回　補聴器の福祉申請、事例検討（小児・成人） 第6回～第7回　人工内耳とは…構造・適応基準・リスク・禁忌など 第8回　人工内耳装用のリハビリテーション・評価法など 第9回　定期試験（振り返り）		
教科書	事前にプリント等配布		
参考書	・立木孝（編）・日本聴覚医学会（監）： 『聴覚検査の実際　改訂3版』（南山堂）、3,570円+税 ・中村公枝・城間将江・鈴木恵子（編）・藤田郁代（監）： 『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学』　（医学書院）、5,200円+税 ・小寺一興（著）： 『補聴器フィッティングの考え方　改訂3版』（診断と治療社）、3,200円+税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	補聴器を選択、フィッティングしていく過程には、純音・語音聴力検査など聴覚検査の解釈ができることが重要です。また、難聴児者におけるコミュニケーション障害についての理解も必要です。聴覚障害学（Ⅰ）概論、（Ⅱ）成人聴覚障害、（Ⅲ）小児聴覚障害等、他の講義の復習をしておいてください。		
教員紹介	パナソニック補聴器（株）首都圏営業ブロック所属　　言語聴覚士		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅵ (視覚聴覚二重障害)	森澤亮介	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	視覚聴覚二重障害児・者への言語療法を展開できるようになるため、病理・生理・コミュニケーションモードなど基礎的な知識を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	視覚聴覚二重障害の病理・生理・コミュニケーションなど基礎的知識を身につける。 事例検討やケースレポートを通して視覚聴覚二重障害について考察できる。		
授業計画	第1回　視覚障害　概論 第2回　視覚障害疑似体験 第3回　視覚聴覚二重障害　病理・生理 第4回　視覚聴覚二重障害　コミュニケーション 第5回　視覚聴覚二重障害者の生活 第6回　視覚聴覚二重障害疑似体験 第7回　視覚聴覚二重障害児・者への言語訓練 第8回　視覚聴覚二重障害児　事例検討		
教科書	講義資料　講義時に配布		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	筆記試験80%　講義内における小レポート20%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	事例検討は、4～5人の小グループで行います。 障害疑似体験では、アイマスクを使用します。(タオル等での代用も可) 可能な範囲で事前に準備してください。		
教員紹介	公立の特別支援学校で視覚聴覚二重障害のある児童・生徒を担当していました。当時の実践例から具体的な関わりの基礎をお話しいたします。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅶ (聴覚障害学)	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な成人聴覚障害、小児聴覚障害、補聴器・人工内耳、視覚聴覚二重障害といった聴覚障害学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、聴覚障害学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と聴覚障害学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、聴覚障害学領域を理解し、言語化することができる。 ・聴覚障害学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・聴覚障害学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な聴覚障害学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1回：学力確認テストと解説 第2回：聴覚障害学に対する学力の自己分析 第3回～7回：ポイント講義、質疑応答、振り返り学習 第8回：学力確認テストと解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第4版，医歯薬出版，4,600円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な聴覚障害学領域の知識を教えます。		

2026年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	実習Ⅱ（臨床実習）	鈴木真生・木村欣司 西片裕・山﨑暁 実習指導者	12単位・480時間
授業の概要 （授業の目的）	・臨床実習指導者の指導を受けながら、対象者の全体像ならびに生活機能と障害をとらえ、評価・訓練計画の立案・具体的訓練の一部経験・記録・再評価など一連の言語聴覚療法を学ぶ。 ・言語聴覚士としての基本的臨床能力を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・対象者やその家族と真摯に向き合うことができる。 ・対象者に関する情報を取捨選択し、生活上の問題点とその原因について仮説を立てることができる。 ・評価、言語病理学的診断、訓練仮説を立てることができる。 ・訓練仮説にもとづいた訓練計画を立案し、訓練の一部が経験できる。 ・評価に加え、経過のまとめや現状、今後の課題、方針等を含めた報告書が根拠にもとづき作成できる。 ・他職種との連携が理解できる。 ・自分の考えを整理して、相手に伝えることができる。 ・実習経験をふまえ、臨床の流れ（臨床思考過程）を説明することができる。		
授業計画	【実習期間：予定】　※2026年2月時点 2026年7月6日（月）～2026年11月28日（土）まで 【実習時間】 上記期間のうち合計480時間の実習を行う。 ※内訳：320時間（40日間）・160時間（20日間） 【その他】 ・実習Ⅱ（臨床実習）は実習施設で行う。 ・実習配置は別途指定する登校日に発表を行う。実習配置をもとに施設の概要等を確認する。 ・実習前に実施する「実習ガイダンス」に必ず出席する。 ・具体的な実習の内容は「実習ガイダンス」にて詳細を別途配布する。 ・実習終了後、学内で予定されている「症例報告会」に出席し、発表を行う。		
教科書	必要に応じて種々のものを活用する。		
参考書	必要に応じて種々のものを活用する。		
成績評価の 方法・基準	実習報告及び平素の実習成績に基づき、実習指導者と教員が総括的に評価する。実習成績表については、詳細を別途配布する。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習は、施設側のご厚意と実習指導者の後輩育成に対する熱意、対象者のご協力のもとに成り立つものである。学生は、実習指導者のもとで意欲的に取り組むとともに、真摯さ、感謝を忘れてはならない。また、実習に向けて事前準備をしっかり行うこと。		
教員紹介	病院や介護老人保健施設等の実習施設において、各施設で勤務される言語聴覚士が実習指導者となり言語聴覚臨床の実際について指導します。 また、言語聴覚士の経験をもつ学科教員が臨床実習前・後の指導を行います。		